

# 第 2 5 回川崎病全国調査成績

特定非営利活動法人  
日本川崎病研究センター

川崎病全国調査担当グループ

[連絡先]

〒 329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1  
自治医科大学公衆衛生学教室気付  
川崎病全国疫学調査事務局

連絡担当 小佐見光樹・屋代真弓・牧野伸子・中村好一

TEL 0285-44-6192  
FAX 0285-44-7217

2019 年 9 月

# 第 25 回川崎病全国調査成績

## はじめに

1970 年以来、2 年に 1 回の間隔で 24 回にわたって、川崎病全国調査が実施されてきた<sup>1-43)</sup>。今回 2017 年と 2018 年の 2 年間の患者を対象に実施した第 25 回川崎病全国調査の成績がまとまった。

調査項目は、報告患者数、初診年月分布、性別、年齢分布、地域分布、診断、家族歴、再発例、死亡例、心障害例（初診時の異常、急性期の異常、後遺症）、初診時病日、不全型での主要症状の数、免疫グロブリン（IG）治療（不応例の有無、ステロイド併用の有無と内容、初回 IG 投与施設）、初回 IG 投与後の追加治療（追加 IG 投与、ステロイド投与、インフリキシマブ投与、免疫抑制剤投与、血漿交換）、第 25 回の追加項目として初診前 1 週間以内の抗生剤投与の有無及び使用薬剤種別である。

これまでに得られた過去の調査成績と比較しながらその概要を報告する。

## 1. 方法

第 25 回川崎病全国調査は、小児科を標榜する 100 床以上の病院、および小児科のみを標榜する 100 床未満の小児専門病院を 2017 年 1 月 1 日より 2018 年 12 月 31 日の 2 年間に受診した川崎病初診患者を対象とした。対象候補施設は第 24 回調査の対象医療機関に調査時点までの変更を更新した 1,816 か所とした。

調査は調査票の郵送により実施した。（添付の調査票様式参照）インターネットサーベイランス（<http://www.kawasaki-disease.net/kawasakidata/>）に参加している一部の施設には電子メールでも依頼し、実施した。

本調査は自治医科大学臨床研究等倫理審査委員会の承認を得て実施した（2018 年 10 月 9 日、臨大 18-070 号）。

## 2. 要旨

### 2.1. 患者数・罹患率の年次推移

過去 24 回の全国調査で報告された患者を合計すると、2018 年 12 月 31 日までの患者数は 395,238 人（男 228,107 人、女 167,131 人）となった。今回の調査で報告された 2017 年と 2018 年の患者数は、2017 年が 15,164 人（男 8,635 人、女 6,529 人）、2018 年が 17,364 人（男 9,964 人、女 7,400 人）であった。

罹患率（0-4 歳人口 10 万対）は、2017 年が 313.6（男 348.9、女 276.5）、2018 年が 359.1（男 402.6、女 313.4）であった。2018 年の罹患率はこれまでの調査で最高であった。2015 年の 330.2 を上回り、最高値であった。

### 2.2. 月別患者数の推移

月別患者数は各年ともに同様の季節変動を認め、すべての月で男の患者が多い。季節変動を観察すると、2015 年までは秋（9-10 月）の患者数は少なく、春から夏にかけて増加していた。2015 年 1 月のピークは過去最高値であった。一方で、2016 年は夏（6-7 月）には患者数が少なく、秋（10-11 月）に増加していた。2016 年以降、1 月の患者数のピークは目立たなくなっている。

### 2.3. 地域分布

第 25 回調査の患者住所の都道府県別集計で最も患者数が多かったのは、東京の 3,785 人で、次いで神奈川の 2,424 人、愛知の 2,276 人であった。また患者数が最も少なかったのは、岩手の 126 人で、次いで鳥取の 131 人、秋田の 151 人であった。

回収率で補正した年次別都道府県別罹患率は、2017 年では徳島 422.2、新潟 388.9、和歌山 385.7 の順に高く、2018 年では大分 495.7、高知 436.0、岡山 434.6 の順に高かった。また罹患率の低い都道府県は、2017 年では岩手 134.9、沖縄 166.7、宮崎 187、2018 年では岩手 158.1、沖縄 202.4、宮崎 252.2 の順に低かった。罹患率の低い都道府県は 2017 年、2018 年で同じだが、罹患率の高い都道府県は両年で異なっていた。

#### 2.4. 診断の確実度

診断の確実度は全体では定型例が 25,661 人 (78.9%)、不定型例が 565 人 (1.7%)、不全型が 6,289 人 (19.3%) で、前回調査とほぼ同様の結果であった。

#### 2.5. 心障害

初診時の異常は全体では 1,604 人 (4.9%) で、男は 1,042 人 (5.6%)、女は 562 人 (4.0%) であった。初診時の異常の診断別患者数は、冠動脈の巨大瘤が 11 人 (0.03%)、瘤が 117 人 (0.36%)、拡大が 1,248 人 (3.84%)、狭窄が 2 人 (0.01%)、心筋梗塞が 0 人 (0%)、弁膜病変が 283 人 (0.87%) であった。

急性期の異常は全体では 2,901 人 (8.9%) で、男は 1,850 人 (9.9%)、女は 1,051 人 (7.5%) であった。急性期の異常の診断別患者数は、冠動脈の巨大瘤が 35 人 (0.11%)、瘤が 309 人 (0.95%)、拡大が 2,120 人 (6.52%)、狭窄が 6 人 (0.02%)、心筋梗塞が 4 人 (0.01%)、弁膜病変が 503 人 (1.55%) であった。

後遺症は全体では 845 人 (2.6%)、男は 548 人 (2.9%)、女は 297 人 (2.1%) であった。後遺症の診断別患者数は、冠動脈の巨大瘤が 36 人 (0.11%)、瘤が 206 人 (0.63%)、拡大が 488 人 (1.50%)、狭窄が 6 人 (0.02%)、心筋梗塞が 1 人 (0.003%)、弁膜病変が 164 人 (0.50%) であった。

#### 2.6. 免疫グロブリン治療

IG 治療を受けた患者は 30,784 人 (94.6%) であった。IG 治療を受けた患者のうち、6,061 人 (19.7%) が不応例であった。初回 IG 治療時にステロイドが併用された患者は 4,076 人 (13.2%) であった。初回 IG を報告施設で投与された患者は 30,042 人 (97.7%) であった。初回 IG の 1 日あたりの投与量は、1900-2099mg/kg の患者が最も多く 29,443 人 (95.7%) で、次いで 900-1099mg/kg が 754 人 (2.45%) であった。投与期間は 1 日が最も多く 30,141 人 (98.0%) で、次いで 2 日間の 596 人 (1.94%) であった。初回 IG 治療開始時病日は第 5 病日が 10,710 人 (34.8%) で最も多かった。

#### 2.7. 抗生剤使用の状況

初診前 1 週間以内に抗生剤を投与された患者は 14,156 人 (43.5%) であった。投与された抗生剤はセフェム系が 8,465 人で最も多く、次いでペニシリン系の 3,187 人、マクロライド系の 758 人であった。

#### 2.8. 家族歴

同胞例ありの患者は全体では 696 人 (2.1%) で、男は 386 人 (2.1%)、女は 310 人 (2.2%) であった。

両親のいずれかに川崎病の既往歴があった患者は 419 人 (1.3%) であった。性別、年齢別、診断別の観察で明らかな差は認めなかった。両親に川崎病の既往があった患者のうち、父親に既往があった患者が 214 人 (51.1%)、母親に既往があった患者が 199 人 (47.5%) であった。

### 3. 調査結果

#### 3.1. 回収率

依頼状、調査票を送付した 1,816 施設のうち、廃院等の連絡があった 12 施設を除く 1,804 施設を調査対象とした。回答は 1,357 施設から得られ、回収率は 75.2 % であった。そのうち、ホームページより調査票をダウンロードして Excel ファイルで回答した施設が 139 か所、インターネットサーベイランス参加施設で登録済みの患者ファイルを使用して回答した施設が 27 か所であっ

た。なお、インターネットサーベイランス参加施設でも調査票郵送により協力を得た施設もある。回答があった 1,357 施設のうち、患者報告があった施設は 924 施設（回答施設の 68.1%）であった。都道府県ごとの回答率は 65.2%～95.5%の幅があり、前回の調査と同様であった。

### 3.2. 患者数・罹患率の年次推移

これまでの調査と今回の調査から得られた性別患者数、罹患率の年次推移を表 1 に示す。過去 24 回の全国調査で報告された患者を合計すると、2018 年 12 月 31 日までの患者数は 395,238 人（男 228,107 人、女 167,131 人）となった。今回の調査で報告された 2017 年と 2018 年の患者数は、2017 年が 15,164 人（男 8,635 人、女 6,529 人）、2018 年が 17,364 人（男 9,964 人、女 7,400 人）であった。

報告患者のうち、氏名イニシアル、性、出生年月日、住所市区町村をキーとして重複対象患者（2 か所以上の施設から報告あり）の選出をし（2,874 人ヒット）、1 例ずつ再発（両者の初診日が 1 ヶ月以上あいている）、別人（住所府県が異なる等）の確認を行い、最終的に重複対象者（1,900 人）を決定した。このうち初診年月日の早い方（初診年月日が同日の場合は転院ありのもの）944 人を今回の患者として残し、他施設受診の重複患者 956 人は除外した。残した患者の不明項目のデータ、診断、同胞～死亡などのデータについては同人のデータを比較して重い方を採用して転記した。抗生剤投与の項目については、2 回目以降のデータは無視した。

罹患率（0-4 歳人口 10 万対）は、2017 年が 313.6（男 348.9、女 276.5）、2018 年が 359.1（男 402.6、女 313.4）であった。2018 年の罹患率はこれまでの調査で最高であった。2015 年の 330.2 を上回り、最高値であった。

2018 年の患者数、罹患率の性比（男/女）はそれぞれ 1.35、1.28 であり、いずれも男が高いという結果であった。

患者数の年次推移を図 1 に示す。1979 年、1982 年、1986 年の 3 回にわたる全国規模の流行の後、1995 年頃より年次とともに患者数の上昇が続いている。2010 年以降の年間の患者数は 12,000 人を超え、1986 年の 3 回目の流行に匹敵する患者数となった。2012 年には 1979 年の 1 回目の流行の約 2 倍となった。さらに 2013 年以降は 15,000 人を超えており、1982 年の 2 回目の流行の患者数を超えた。近年も患者数は増加しており、2016 年、2017 年にやや減少したものの 2018 年に過去最高の患者数となった。

罹患率の年次推移を図 2 に示す。罹患率も増加傾向であり、前述のように 2018 年は 359.1（男 402.6、女 313.4）と過去最高値であった。少子化が進行しているにも関わらず、患者数、罹患率ともに増加が続いている。

### 3.3. 月別患者数の推移

性別、月別患者数の推移を図 3 に示す。月別患者数は各年ともに同様の季節変動を認め、すべての月で男の患者が多い。

季節変動を観察すると、2015 年までは秋（9-10 月）の患者数は少なく、春から夏にかけて増加していた。2015 年 1 月のピークは過去最高値であった。一方で、2016 年は夏（6-7 月）には患者数が少なく、秋（10-11 月）に増加していた。2016 年以降、1 月の患者数のピークは目立たなくなってきた。2015 年と 2016 年を境に月別患者数の分布が変化（特に 1 月のピークが目立たなくなった）しているが、今後もこの傾向が続くのか、それとも一時的のものなのか、観察の継続が必要である。

2013 年から 2018 年の調査について、月別患者数の平均を観察したところ、季節変動は 2 月と 9 月にくぼみがある曲線を呈した（図 4）。

### 3.4. 性・年齢分布

第 25 回調査（2017 年、2018 年）の報告患者の年齢別、性別患者数、罹患率を表 2 に示す。第 25 回調査の報告患者全体では 4 歳未満の患者が 71%を占めていた。年齢別罹患率（人口 10 万対）はともに月齢 9-11 か月が最も高く、2017 年が 472.2、2018 年が 502.2 であった。

第 24 回調査でも月齢 9-11 か月にピークを認めた。性別、年齢別罹患率を第 24 回調査と第 25 回調査で比較したところ、同様の傾向が観察された（図 5）。

### 3.5. 地域分布

患者住所都道府県別、年次別、性別患者数及び罹患率（0-4歳人口10万対）を表3に示す。第25回調査の患者住所の都道府県別集計で最も患者数が多かったのは、東京の3,785人で、次いで神奈川の2,424人、愛知の2,276人であった。また患者数が最も少なかったのは、岩手の126人で、次いで鳥取の131人、秋田の151人であった。

回収率で補正した年次別、都道府県別罹患率は、2017年では徳島422.2、新潟388.9、和歌山385.7の順に高く、2018年では大分495.7、高知436.0、岡山434.6の順に高かった。また罹患率の低い都道府県は、2017年では岩手134.9、沖縄166.7、宮崎187、2018年では岩手158.1、沖縄202.4、宮崎252.2の順に低かった。

罹患率の低い都道府県は2017年、2018年で同じだが、罹患率の高い都道府県は両年で異なっていた。図6には2015年から2018年の都道府県別罹患率が日本地図上に示してあるが、罹患率の高い地域は各年とも一致していない。2018年は関東甲信越地方、関西地方、九州地方で罹患率の高い都道府県が目立っている。

### 3.6. 診断の確実度

診断の確実度は全体では定型例が25,661人（78.9%）、不定型例が565人（1.7%）、不全型が6,289人（19.3%）で、前回調査とほぼ同様の結果であった（表4）。不全型の主要症状の数は4個が4,459人（70.9%）で最も多く、次いで3個（23.4%）、2個（5.1%）であった。性別にみても差はなく、これも前回調査と同様の結果であった（表5）。

なお、定型例（調査票では「確実A」とした）は「川崎病診断の手引き 改訂5版」（2002年2月に診断の手引きが改訂され、第17回全国調査から改訂5版を使用）に示された6つの主要症状のうち5つ以上の症状を認める者、不定型例（調査票では「確実B」）は4つの症状しか認められなくても、経過中に断層心エコー法もしくは心血管造影法で、冠動脈瘤（いわゆる拡大を含む）が確認され、他の疾患が除外された者をいう。また不全型は上記のいずれにも合致しないが、主治医が川崎病の疑いありと診断して全国調査に報告した者をいう。

### 3.7. 再発例

再発例は全体では1,478人（4.5%）で、男は868人（4.7%）、女は610人（4.4%）であった。年齢別の観察では1歳以降で再発の割合が高くなる傾向があった。

### 3.8. 死亡例

2017年から2018年にかけて死亡例は6例（男3例、女3例）あり、年齢の範囲は6か月から9歳であった。診断の確実度は定型例2例、不定型例1例、不全型3例であった。死因が川崎病であったのは1例であった（表6）。

### 3.9. 心障害例

心障害については、「初診時の異常」、発病後1か月以内に出現した「急性期の異常」、1か月以降も残存する「後遺症」の3時点に分けて調査を実施した。

初診時の異常は全体では1,604人（4.9%）で、男は1,042人（5.6%）、女は562人（4.0%）であった。初診時の異常の診断別患者数は、冠動脈の巨大瘤が11人（0.03%）、瘤が117人（0.36%）、拡大が1,248人（3.84%）、狭窄が2人（0.01%）、心筋梗塞が0人（0%）、弁膜病変が283人（0.87%）であった。性別に観察すると、弁膜病変以外では男の割合が高かった。年齢別に観察すると、巨大瘤と弁膜病変の出現割合は2歳以上で高かった。全ての診断で不定型例の割合が高かった。

急性期の異常は全体では2,901人（8.9%）で、男は1,850人（9.9%）、女は1,051人（7.5%）であった。急性期の異常の診断別患者数は、冠動脈の巨大瘤が35人（0.11%）、瘤が309人（0.95%）、拡大が2,120人（6.52%）、狭窄が6人（0.02%）、心筋梗塞が4人（0.01%）、弁膜病変が503人（1.55%）であった。性別に観察すると、弁膜病変以外では男の割合が高かった。年齢別に観察すると、巨大瘤と弁膜病変の出現割合は2歳以上で高かった。全ての診断で不定型例の割合が高かった。

後遺症は全体では845人（2.6%）、男は548人（2.9%）、女は297人（2.1%）であった。後遺症の診断別患者数は、冠動脈の巨大瘤が36人（0.11%）、瘤が206人（0.63%）、拡大が488人（1.50%）、狭窄が6人（0.02%）、心筋梗塞が1人（0.003%）、弁膜病変が164人（0.50%）であった。性別に観察すると、弁膜病変以外では男の割合が高かった。年齢別に観察すると、弁膜病変の出現割合

は2歳以上で高かった。全ての診断で不定型例の割合が高かった。

初診時の異常、急性期の異常を認めた割合は前回調査よりも微増した。心障害の診断別の出現頻度の観察では、冠動脈巨大瘤は初診時に比べ、急性期、後遺症で約3.5倍であった。冠動脈瘤は初診時に比べ、急性期に2.6倍となり、後遺症でやや減少した。冠動脈の拡大は初診時に比べ、急性期に約2倍となり、後遺症では初診時の半分以下に減少した。弁膜病変は、初診時に比べ後遺症では約半分に減少した(表7)。性別、年齢別に観察すると、心障害の割合は若年児と年長児に高く、緩やかなU字型の曲線を呈していた(図7)。

急性期の心障害の出現割合は第15回調査(1997-1998年)では20.1%であったが、その後著明に減少している。また後遺症の出現割合はゆるやかに減少している(図8)。

### 3.10. 初診時病日及び初回免疫グロブリン治療開始時病日

患者の初診時病日は第4病日が8,192人(25.2%)で最も多く、20,679人(63.6%)が第4病日までに受診していた。2歳未満と2歳以上で分類すると、2歳未満では67.8%が第4病日までに受診していたが、2歳以上では60.3%にとどまっており、年長児で受診が遅れる傾向が観察された。

初回IG治療開始時病日は第5病日が10,710人(34.8%)で最も多かった。2歳未満と2歳以上で分類すると、2歳未満では75.4%が第5病日までに治療を開始されていたが、2歳以上では67.4%であり、2歳未満でより早期にIGが投与される傾向が観察された(表8)。

### 3.11. 免疫グロブリン治療とステロイド併用

IG治療を受けた患者は30,784人(94.6%)であった。男が17,608人(94.7%)で、女が13,176人(94.6%)であり、性差は認めなかった(表9)。IG治療を受けた患者のうち、6,061人(19.7%)が不応例であった。性別の観察では男、年齢別の観察では年長児に不応例が多かった(表10)。

初回IG治療時にステロイドが併用された患者は4,076人(13.2%)であった。性別の観察ではステロイドが併用された患者に性差は認めず、年齢別の観察では年齢が高くなるほどステロイドが併用された割合が高くなっていた。診断別では定型例が3,463人(13.8%)、不定型例が67人(12.7%)、不全型が546人(10.4%)であった。

ステロイド併用の内容は、ステロイドパルス療法が699人(17.1%)、ステロイドパルス療法以外が3,447人(84.6%)であった。(1人の患者に両方の治療を併用した例があるため、合計は総数を超える。)性別の観察ではステロイドパルス療法は男で多く、ステロイドパルス療法以外は女が多かった。年齢別の観察ではステロイドパルス療法は10歳以上の症例で施行された割合が高かった(表11)。

初回IGを報告施設で投与された患者は30,042人(97.7%)で、性別、年齢別に観察しても同様の結果であった(表12)。初回IGの1日あたりの投与量は、1900-2099mg/kgの患者が最も多く29,443人(95.7%)で、次いで900-1099mg/kgが754人(2.45%)であった。投与期間は1日が最も多く30,141人(98.0%)で、次いで2日間の596人(1.94%)であった(表13)。初回IGの1日投与量と使用日数から計算した使用総量は、1900-2099mg/kgが最も多く97.1%で、次いで2100mg/kg+が1.26%、900-1099mg/kgが0.85%であった。前回同様、使用総量2000mg/kg以上の大量投与がIG治療を受けた患者の9割以上を占めていた(図9)。

### 3.12. 初回免疫グロブリン投与後の追加治療法

追加治療(追加IG投与)の割合は、初回IG使用例の21.6%であった。(再燃時のIG投与を含む。)性別では男が多く、2歳未満と2歳以上に分けてみると2歳以上が多かった。診断別では不定型例が多かった。

追加治療(ステロイド投与)の割合は初回IG使用例の6.28%であった。性別では差はなく、2歳未満と2歳以上に分けてみると、2歳以上が多かった。診断別では定型例が多かった。

追加治療(インフリキシマブ投与)の割合は初回IG使用例の2.57%であった。性別では男が多く、2歳未満と2歳以上に分けてみると、2歳以上が多かった。診断別では不定型例が多かった。インフリキシマブ投与例の割合は前回調査の1.4%から増加していた。

追加治療(免疫抑制剤投与)の割合は初回IG使用例の1.46%であった。性別では男が多く、2歳未満と2歳以上に分けてみても明らかな差はなかった。診断別では不定型例が多かった。

追加治療(血漿交換)の割合は初回IG使用例の0.53%であった。性別では男が多く、2歳未満

と2歳以上では、2歳未満でやや多かった。診断別では不定型例が多かった（表14）。

同様に、初回IG不応例について追加治療の割合を観察した。

初回IG不応例の追加治療（追加IG投与）の割合は、91.1%であった。性別では男が多く、2歳未満と2歳以上に分けてみると、2歳未満でやや多かった。診断別では定型例が多かった。

初回IG不応例の追加治療（ステロイド投与）の割合は24.8%であった。性別では女が多く、2歳未満と2歳以上に分けても差はなかった。診断別では定型例が多かった。

初回IG不応例の追加治療（インフリキシマブ投与）の割合は12.1%であった。性別では男が多く、2歳未満と2歳以上に分けてみると、2歳以上が多かった。診断別では不定型例が多かった。初回IG不応例の追加治療（免疫抑制剤投与）の割合は6.5%であった。性別では男が多く、2歳未満と2歳以上に分けてみると、2歳未満がやや多かった。診断別では不定型例が多かった。

初回IG不応例の追加治療（血漿交換）の割合は2.6%であった。性別では男が多く、2歳未満と2歳以上に分けてみると、2歳未満がやや多かった。診断別では不定型例が多かった（表15）。

### 3.13. 抗生剤使用の状況

初診前1週間以内に抗生剤を投与された患者は14,156人（43.5%）であった。性別の観察では、男が8,060人（43.3%）、女が6,096人（43.8%）であった。年齢別の観察では、年齢が高くなるほど抗生剤を投与された割合が高くなっていた。診断別の観察では抗生剤が投与された割合に差はなかった（表16）。

投与された抗生剤はセフェム系が8,465人で最も多く、次いでペニシリン系の3,187人、マクロライド系の758人であった（表17）。

### 3.14. 家族歴

同胞例ありの患者は全体では696人（2.1%）で、男は386人（2.1%）、女は310人（2.2%）であった。

両親に川崎病の既往歴があった患者は419人（1.3%）であった。性別、年齢別、診断別の観察で明らかな差は認めなかった（表18）。両親に川崎病の既往があった患者のうち、父親に既往があった患者が214人（51.1%）、母親に既往があった患者が199人（47.5%）であった（表19）。

### 3.15. 転院

転院ありの患者は1,706人（5.2%）であった。性別の観察では、男が1,075人（5.8%）で、女が631人（4.5%）であった。年齢別の観察では、10歳以上で転院の割合が高かった。心障害の有無別の観察では、初診時の異常、急性期の異常、後遺症のいずれでも心障害あり、不明で転院の割合が高かった。診断別の観察では不定型例で転院の割合が高かった（表20）。

## 4. 謝辞

第1回全国調査以来終始変わらぬご協力を賜った関係医療機関の小児科医各位に対し、本研究グループとして深く感謝します。

今回の調査にご協力いただいた医療機関名を巻末に付記します。

本報告書は自治医科大学公衆衛生学ホームページ <http://www.jichi.ac.jp/dph/inprogress/kawasaki/>でも公開しています。

## 5. 文献

- 1) 小児MCL S研究班(班長:神前章雄). 小児MCL S全国調査成績, 昭和45年度予備調査成績と昭和46年度個人調査成績の概要. 1971.
- 2) 重松逸造, 柳川洋. いわゆる川崎病について. 日本公衛誌 1975; 22(6): 306-312.
- 3) 柳川洋. 川崎病の実態. 公衆衛生情報 1975; 5(12): 22-29.
- 4) 柳川洋. 川崎病の疫学. 日本臨床 1976; 34(2): 275-283.
- 5) 川崎病研究班. 最近(1977-78年)におけるMCL S(川崎病)の実態, -第5回全国調査結果の速報-. 小児科 1979; 20(7): 755-757.
- 6) 川崎病研究班. MCL S(川崎病の多発) -第6回全国調査成績の速報-. 小児科 1981; 22(1): 53-58.
- 7) 川崎病研究班. 最近(1981年1月-82年6月)におけるMCL S(川崎病)の実態, -第7回全国調査成績の速報-. 小児科 1983; 24(1): 53-58.
- 8) 厚生省川崎病研究班. 第8回川崎病全国調査成績. 小児科 1985; 26(9): 1049-1053.
- 9) 柳川洋. 川崎病の全国調査成績. 川崎病疫学データのすべて(日本心臓財団川崎病原因究明委員会編). 東京:ソフトサイエンス社, 1986; 37-51.
- 10) 厚生省川崎病研究班. 第9回川崎病全国調査成績. 小児科 1987; 28(9): 1059-1066.
- 11) 柳川洋, 屋代真弓, 藤田委由. 川崎病の全国調査成績. 川崎病(川崎富作, 重松逸造, 濱島義博, 柳川洋, 加藤裕久編). 東京:南江堂, 1988; 18-31.
- 12) 厚生省川崎病研究班. 第10回川崎病全国調査成績. 小児科 1990; 31(5): 569-576.
- 13) 厚生省川崎病研究班. 第11回川崎病全国調査成績. 小児科 1992; 33(3): 309-316.
- 14) 厚生省川崎病研究班. 第12回川崎病全国調査成績. 小児科 1994; 35(1): 61-73.
- 15) 厚生省川崎病研究班. 第13回川崎病全国調査成績. 小児科 1996; 37(4): 363-383.
- 16) 厚生省川崎病研究班. 第14回川崎病全国調査成績. 小児科診療 1998; 61(3): 406-420.
- 17) 厚生省川崎病研究班. 第15回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2000; 63(1): 121-132.
- 18) 厚生省川崎病研究班. 第16回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2002; 65(2): 332-342.
- 19) 柳川洋, 中村好一, 屋代真弓, 川崎富作(編). 川崎病の疫学-30年間の総括-. 東京:診断と治療社, 2002.
- 20) 厚生労働省川崎病研究班. 第17回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2004; 67(2): 313-323.
- 21) 厚生労働省川崎病研究班. 第18回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2006; 69(2): 281-292.
- 22) 屋代真弓, 中村好一, 柳川洋. 川崎病疫学像の最近の推移 1989 ~ 2004. 日本小児科学会雑誌. 2007; 111(6): 740-745.
- 23) 厚生労働省川崎病研究班. 第19回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2008; 71(2): 349-360.
- 24) 川崎病全国調査担当グループ(特定非営利活動法人川崎病研究センター). 第20回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2010; 73(1): 143-156.
- 25) 川崎病全国調査担当グループ(特定非営利活動法人川崎病研究センター). 第21回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2012; 75(3): 507-523.
- 26) 川崎病全国調査担当グループ(特定非営利活動法人川崎病研究センター). 第22回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2014; 77(2): 271-290.
- 27) 川崎病全国調査担当グループ(特定非営利活動法人川崎病研究センター). 第23回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2016; 79(2): 273-292.
- 28) 川崎病全国調査担当グループ(特定非営利活動法人川崎病研究センター). 第24回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2018; 81(2): 271-274.
- 29) Kawasaki T, Kosaki F, Okawa S, Shigematsu I, Yanagawa H. A new infantile acute febrile mucocutaneous lymph node syndrome (MLNS) prevailing in Japan. Pediatrics 1974; 54: 271-276.
- 30) Yanagawa H, Kawasaki T, Shigematsu I. Nationwide survey on Kawasaki disease in Japan. Pediatrics 1987; 80: 58-62.
- 31) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Fujita Y, Nagai M, Kawasaki T, Aso S, Imada Y, Shigematsu I. A nationwide survey of Kawasaki disease in 1985-1986 in Japan. J Infect Dis 1988; 158(6): 1296-1301.
- 32) Yanagawa H, Yashiro M, Nakamura Y, Kawasaki T, Kato H. Epidemiologic pictures of Kawasaki disease in Japan: From the nationwide survey in 1991 and 1992. Pediatrics 1995; 95(4): 475-479.



- 3 3) Yanagawa H, Yashiro M, Nakamura Y, Kawasaki T, Kato H. Results of 12 nationwide epidemiological incidence surveys of Kawasaki disease in Japan. Arch Pediatr Adolesc Med 1995; 149: 779-783.
- 3 4) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Ojima T, Koyanagi H, Kawasaki T. Update of the epidemiology of Kawasaki disease in Japan, From the results of 1993-94 nationwide survey. J Epidemiol 1996; 6(3): 148-157.
- 3 5) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Ojima T, Tanihara S, Oki I, Zhang T. Results of the nationwide epidemiologic survey of Kawasaki disease in 1995 and 1996 in Japan. Pediatrics 1998; 102(6): e65.
- 3 6) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Oki I, Hirata S, Zhang T, Kawasaki T. Incidence survey of Kawasaki disease in 1997 and 1998 in Japan. Pediatrics 2001; 107(3): e33.
- 3 7) Nakamura Y, Yashiro M, Uehara R, Oki I, Watanabe M, Yanagawa H. Epidemiologic Features of Kawasaki Disease in Japan:Results from Nationwide Survey in 2005-2006. J Epidemiol 2008; 18(4): 167-172.
- 3 8) Nakamura Y, Yashiro M, Uehara R, Oki I, Watanabe M, Yanagawa H. Monthly observation of the numbers of patients and incidence rates of Kawasaki disease in Japan: results from nationwide surveys. J Epidemiol 2008; 18(6): 273-279.
- 3 9) Nakamura Y, Yashiro M, Uehara R, Sadakane A, Chihara I, Aoyama Y, Kotani K, Yanagawa H. Epidemiologic features of Kawasaki disease in Japan: Results of the 2007-2008 nationwide survey. J Epidemiol 2010; 20(4): 302-307.
- 4 0) Nakamura Y, Yashiro M, Uehara R, Sadakane A, Tsuboi S, Aoyama Y, Kotani K, Tsogzolbaatar EO, Yanagawa H. Epidemiologic features of Kawasaki disease in Japan: Results of the 2009-2010 nationwide survey. J Epidemiol 2012; 22(2): 216-221.
- 4 1) Makino N, Nakamura Y, Yashiro M, Ae R, Tsuboi S, Aoyama Y, Kojo K, Uehara R, Kotani K, Yanagawa H: Descriptive epidemiology of Kawasaki disease in Japan, 2011-2012: from the results of the 22nd nationwide survey. J Epidemiol 2015; 25(3):239-245.
- 4 2) Makino N, Nakamura Y, Yashiro Mayum, Sano T, Ae R, Kosami K, Kojo T, Aoyama Y, Kotani, K, Yanagawa H. Epidemiological observation of Kawasaki disease in Japan,2013-2014. Pediatrics International 2018; 60:581-587.
- 4 3) Makino N, Nakamura Y, Yashiro M, Kosami K, Matsubara Y, Ae R, Aoyama Y, Yanagawa H. Nationwide epidemiologic survey of Kawasaki disease in Japan,2015–2016. Pediatrics International 2019; 61:397-403.

文献 34 と 37-41 は **Journal of Epidemiology** のサイト (<http://www.jstage.jst.go.jp/article/jea/>) で、  
 文献 35 と 36 は **Pediatrics** のサイト (<http://www.pediatrics.org/cgi/content/>) で読むことができます。

[表1]性別患者数、罹患率、死亡数、致命率の推移

年次	患者数			0-4歳人口10万対年間罹患率*			死亡数 (致命率%)
	計	男	女	計	男	女	
～1964	88	58	30	1.1	1.4	0.8	—
1965	61	33	28	0.8	0.8	0.7	—
1966	79	49	30	1.0	1.2	0.8	—
1967	101	60	41	1.2	1.4	1.0	2(1.98)
1968	310	177	133	3.7	4.1	3.2	6(1.94)
1969	461	281	180	5.3	6.3	4.3	9(1.95)
1970	887	527	360	10.1	11.8	8.4	10(1.13)
1971	804	480	324	8.7	10.1	7.1	10(1.24)
1972	1,135	658	477	12.0	13.5	10.4	16(1.41)
1973	1,524	928	596	15.6	18.4	12.5	34(2.23)
1974	1,963	1,157	806	19.7	22.6	16.7	20(1.02)
1975	2,216	1,332	884	22.3	26.1	18.3	16(0.72)
1976	2,337	1,406	931	23.9	28.0	19.6	15(0.64)
1977	2,798	1,706	1,092	29.3	34.8	23.5	17(0.61)
1978	3,459	2,064	1,395	37.7	43.7	31.2	14(0.40)
1979	6,867	3,987	2,880	78.0	88.1	67.3	34(0.50)
1980	3,932	2,317	1,615	46.5	53.4	39.2	8(0.20)
1981	6,383	3,677	2,706	78.3	87.9	68.2	16(0.25)
1982	15,519	8,762	6,757	196.1	215.8	175.4	46(0.30)
1983	5,961	3,441	2,520	77.3	86.9	67.1	15(0.25)
1984	6,514	3,790	2,724	86.0	97.5	73.9	17(0.26)
1985	7,611	4,430	3,181	102.1	116.4	87.1	10(0.13)
1986	12,847	7,250	5,597	176.8	194.7	157.9	18(0.14)
1987	5,256	3,066	2,190	73.8	84.0	63.1	9(0.17)
1988	5,217	3,056	2,161	75.3	86.0	64.1	4(0.08)
1989	5,591	3,251	2,340	83.6	94.7	71.9	8(0.14)
1990	5,706	3,268	2,438	88.1	98.4	77.3	12(0.21)
1991	5,677	3,354	2,323	90.1	103.8	75.7	7(0.12)
1992	5,544	3,250	2,294	89.9	102.8	76.4	2(0.04)
1993	5,389	3,155	2,234	89.1	101.6	75.9	11(0.20)
1994	6,069	3,574	2,495	101.1	115.9	85.4	2(0.03)
1995	6,107	3,548	2,559	102.6	116.4	88.2	6(0.09)
1996	6,424	3,691	2,733	108.4	121.6	94.6	4(0.06)
1997	6,373	3,690	2,683	108.0	122.0	93.2	9(0.14)
1998	6,593	3,799	2,794	111.5	125.3	96.9	2(0.03)
1999	7,047	4,102	2,945	119.6	135.8	102.6	3(0.04)
2000	8,267	4,758	3,509	141.1	158.5	122.8	5(0.06)
2001	8,113	4,588	3,525	138.8	153.2	123.7	0( - )
2002	8,839	5,156	3,683	151.9	172.8	130.0	2(0.02)
2003	9,146	5,281	3,865	159.2	179.2	138.2	4(0.04)
2004	9,992	5,778	4,214	175.9	198.3	152.4	4(0.04)
2005	10,041	5,868	4,173	181.0	206.5	154.2	1(0.01)
2006	10,434	6,024	4,410	191.4	215.8	165.9	1(0.01)
2007	11,581	6,684	4,897	215.3	242.6	186.6	2(0.02)
2008	11,756	6,839	4,917	219.9	249.6	188.5	4(0.03)
2009	10,975	6,249	4,726	206.2	229.0	182.2	0( - )
2010	12,755	7,266	5,489	242.8	270.2	214.0	1(0.01)
2011	12,774	7,406	5,368	243.1	275.2	209.4	1(0.01)
2012	13,917	8,036	5,881	266.4	300.4	230.7	3(0.02)
2013	15,696	9,044	6,652	302.5	340.1	262.9	1(0.01)
2014	15,979	9,097	6,882	309.9	344.1	273.9	7(0.04)
2015	16,323	9,385	6,938	330.2	371.2	287.3	1(0.01)
2016	15,272	8,675	6,597	312.1	346.4	276.0	1(0.01)
2017	15,164	8,635	6,529	313.6	348.9	276.5	1(0.01)
2018	17,364	9,964	7,400	359.1	402.6	313.4	5(0.03)
計	395,238	228,107	167,131	—	—	—	456(0.12)

\*罹患率の計算には人口動態統計の分母に用いる日本人人口(5年ごとの国勢調査人口および各年次の推計人口で人口動態統計に掲載されているもの。ただし、2018年は2017年の推計人口)を用いた。2015年の人口を用いたので今回2016年の人口で修正した。

[表2]年齢別、年次別、性別患者数および罹患率(人口10万対)

年齢	患者数											
	総数				2017年				2018年			
	総数	罹患率*	男	女	総数	罹患率*	男	女	総数	罹患率*	男	女
総数**	32,528	336.3	18,599	13,929	15,164	313.6	8,635	6,529	17,364	359.1	9,964	7,400
0-2か月	432	91.2	235	197	211	89.1	111	100	221	93.3	124	97
3-5か月	1,400	295.7	889	511	702	296.5	446	256	698	294.8	443	255
6-8か月	2,002	422.8	1,214	788	948	400.4	552	396	1,054	445.2	662	392
9-11か月	2,307	487.2	1,387	920	1,118	472.2	668	450	1,189	502.2	719	470
12-14か月	2,060	418.3	1,245	815	1,012	411.0	631	381	1,048	425.6	614	434
15-17か月	2,143	435.1	1,218	925	1,047	425.2	585	462	1,096	445.1	633	463
18-20か月	2,003	406.7	1,175	828	929	377.3	539	390	1,074	436.1	636	438
21-23か月	1,826	370.8	1,039	787	844	342.7	485	359	982	398.8	554	428
2歳-2歳5か月	3,343	353.4	1,897	1,446	1,568	331.5	893	675	1,775	375.3	1,004	771
2歳6か月-2歳11か月	2,870	303.4	1,577	1,293	1,302	275.3	707	595	1,568	331.5	870	698
3歳-3歳5か月	2,548	265.7	1,434	1,114	1,115	232.5	621	494	1,433	298.9	813	620
3歳6か月-3歳11か月	2,176	226.9	1,194	982	980	204.4	535	445	1,196	249.4	659	537
4歳	3,127	156.8	1,720	1,407	1,420	142.4	774	646	1,707	171.2	946	761
5歳	1,863	89.7	1,004	859	866	83.4	462	404	997	96.0	542	455
6歳	1,008	48.5	555	453	467	45.0	266	201	541	52.1	289	252
7歳	526	25.3	306	220	253	24.4	141	112	273	26.3	165	108
8歳	326	15.7	183	143	142	13.7	84	58	184	17.7	99	85
9歳	193	9.3	110	83	98	9.4	54	44	95	9.2	56	39
10歳以上	375	3.5	217	158	142	2.6	81	61	233	4.3	136	97

\*罹患率の計算には2017年人口動態統計の分母に用いる日本人人口を用いた。

\*\*総数の罹患率の計算には、0-4歳日本人人口を用いた。

[表3]患者住所都道府県別、年次別、性別患者数および罹患率(0-4歳人口10万対)

	2015年				2016年				2017年				2018年			
	患者数			罹患率*	患者数			罹患率*	患者数			罹患率*	患者数			罹患率*
	総数	男	女		総数	男	女		総数	男	女		総数	男	女	
全国**	16,323	9,385	6,938	330.2	15,272	8,675	6,597	312.1	15,164	8,635	6,529	313.6	17,364	9,964	7,400	359.1
1:北海道	532	302	230	281.5	504	296	208	266.7	478	275	203	262.6	628	370	258	345.1
2:青森	128	74	54	284.4	128	90	38	284.4	151	82	69	351.2	124	72	52	288.4
3:岩手	89	48	41	193.5	85	56	29	184.8	58	33	25	134.9	68	43	25	158.1
4:宮城	282	167	115	306.5	277	172	105	301.1	204	126	78	229.2	227	130	97	255.1
5:秋田	87	53	34	280.6	72	42	30	232.3	72	43	29	248.3	79	46	33	272.4
6:山形	141	69	72	343.9	127	78	49	309.8	104	58	46	266.7	156	83	73	400
7:福島	207	127	80	291.5	179	99	80	252.1	171	88	83	244.3	190	116	74	271.4
8:茨城	385	202	183	340.7	358	212	146	316.8	358	190	168	325.5	339	207	132	308.2
9:栃木	286	165	121	366.7	252	142	110	323.1	275	165	110	361.8	294	156	138	386.8
10:群馬	259	147	112	350.0	237	129	108	320.3	210	110	100	287.7	277	147	130	379.5
11:埼玉	1,066	586	480	368.9	1,046	601	445	361.9	838	488	350	289	965	533	432	332.8
12:千葉	865	497	368	357.4	774	432	342	319.8	897	499	398	372.2	1,035	566	469	429.5
13:東京	1,841	1,102	739	345.4	1,888	1,077	811	354.2	1,775	1,025	750	319.2	2,010	1,170	840	361.5
14:神奈川	1,204	655	549	325.4	1,212	703	509	327.6	1,170	659	511	320.5	1,254	745	509	343.6
15:新潟	332	196	136	390.6	287	162	125	337.6	315	172	143	388.9	316	185	131	390.1
16:富山	69	46	23	176.9	65	37	28	166.7	86	54	32	226.3	122	69	53	321.1
17:石川	137	75	62	291.5	156	92	64	331.9	92	45	47	200	167	102	65	363
18:福井	88	53	35	275.0	70	41	29	218.8	99	53	46	319.4	93	56	37	300
19:山梨	105	59	46	338.7	94	53	41	303.2	75	44	31	250	89	50	39	296.7
20:長野	326	178	148	397.6	273	156	117	332.9	293	169	124	370.9	285	167	118	360.8
21:岐阜	246	144	102	303.7	212	112	100	261.7	224	130	94	287.2	221	141	80	283.3
22:静岡	377	219	158	254.7	399	218	181	269.6	419	224	195	291	382	226	156	265.3
23:愛知	1,136	661	475	345.3	1,066	607	459	324.0	1,063	597	466	322.1	1,213	692	521	367.6
24:三重	199	111	88	276.4	183	94	89	254.2	194	109	85	277.1	219	129	90	312.9
25:滋賀	222	133	89	341.5	188	110	78	289.2	202	113	89	320.6	224	118	106	355.6
26:京都	329	204	125	329.0	329	201	128	329.0	278	166	112	283.7	366	209	157	373.5
27:大阪	1,135	625	510	320.6	1,041	543	498	294.1	1,050	617	433	302.6	1,177	690	487	339.2
28:兵庫	632	384	248	277.2	587	326	261	257.5	611	366	245	275.2	766	419	347	345
29:奈良	206	113	93	396.2	175	106	69	336.5	180	106	74	367.3	194	93	101	395.9
30:和歌山	115	70	45	319.4	136	88	48	377.8	135	79	56	385.7	129	82	47	368.6
31:鳥取	84	47	37	350.0	46	22	24	191.7	57	28	29	247.8	74	43	31	321.7
32:島根	92	56	36	328.6	69	39	30	246.4	66	38	28	244.4	80	47	33	296.3
33:岡山	293	173	120	366.2	240	143	97	300.0	260	145	115	333.3	339	191	148	434.6
34:広島	398	240	158	326.2	354	199	155	290.2	375	212	163	317.8	399	238	161	338.1
35:山口	172	112	60	324.5	178	104	74	335.8	113	60	53	226	190	103	87	380
36:徳島	119	67	52	425.0	102	53	49	364.3	114	78	36	422.2	104	62	42	385.2
37:香川	123	73	50	307.5	114	66	48	285.0	108	73	35	276.9	149	93	56	382.1
38:愛媛	131	78	53	242.6	135	74	61	250.0	143	87	56	280.4	178	97	81	349
39:高知	76	41	35	292.3	73	42	31	280.8	77	45	32	308	109	54	55	436
40:福岡	762	431	331	334.2	596	315	281	261.4	698	388	310	310.2	822	473	349	365.3
41:佐賀	106	62	44	286.5	73	41	32	197.3	89	51	38	254.3	111	66	45	317.1
42:長崎	136	70	66	238.6	157	97	60	275.4	147	78	69	267.3	171	98	73	310.9
43:熊本	200	127	73	253.2	214	120	94	270.9	245	129	116	318.2	255	150	105	331.2
44:大分	163	94	69	346.8	123	62	61	261.7	174	95	79	378.3	228	122	106	495.7
45:宮崎	111	53	58	231.3	71	41	30	147.9	86	54	32	187	116	63	53	252.2
46:鹿児島	185	106	79	253.4	180	100	80	246.6	193	107	86	275.7	258	149	109	368.6
47:沖縄	142	88	54	167.1	144	80	64	169.4	140	82	58	166.7	170	102	68	202.4
48:国外	4	2	2	—	3	2	1	—	2	0	2	—	2	1	1	—
不明	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—

\*都道府県別罹患率は2015-2016年は2016年住民基本台帳人口、2017-2018年は2018年住民基本台帳人口を用いて計算した。

\*\*全国の罹患率は各年次の推計人口を用いて計算した(ただし2016年は修正、2018年は2017年の推計人口を使用)。

[表4]性別、年齢別、診断の確実度

		総数(%)		定型例(%)		不定型例(%)		不全型(%)	
総数		32,528	(100)	25,661	(78.9)	565	(1.7)	6,289	(19.3)
性別	男	18,599	(100)	14,590	(78.4)	364	(2.0)	3,638	(19.6)
	女	13,929	(100)	11,071	(79.5)	201	(1.4)	2,651	(19.0)
年齢別	0-5か月	1,832	(100)	1,283	(70.0)	91	(5.0)	457	(24.9)
	6-11か月	4,309	(100)	3,130	(72.6)	92	(2.1)	1,086	(25.2)
	1歳	8,032	(100)	6,263	(78.0)	126	(1.6)	1,639	(20.4)
	2歳	6,213	(100)	5,238	(84.3)	75	(1.2)	895	(14.4)
	3歳	4,724	(100)	3,988	(84.4)	49	(1.0)	687	(14.5)
	4歳	3,127	(100)	2,548	(81.5)	42	(1.3)	537	(17.2)
	5歳	1,863	(100)	1,445	(77.6)	29	(1.6)	389	(20.9)
	6歳	1,008	(100)	755	(74.9)	16	(1.6)	236	(23.4)
	7歳	526	(100)	368	(70.0)	11	(2.1)	146	(27.8)
	8歳	326	(100)	247	(75.8)	8	(2.5)	71	(21.8)
	9歳	193	(100)	139	(72.0)	10	(5.2)	44	(22.8)
	10歳以上	375	(100)	257	(68.5)	16	(4.3)	102	(27.2)

「診断の確実度」不明13人は表から除いたので合計は100%にならない。

[表5]性別、年齢別、不全型の主要症状の数

		患者数 (不全型) (%)	主要症状の数(%)				
			1個	2個	3個	4個	不明*
総数		6,289 (100)	33 (0.5)	321 (5.1)	1,469 (23.4)	4,459 (70.9)	7 (0.1)
性別	男	3,638 (100)	19 (0.5)	196 (5.4)	872 (24.0)	2,546 (70.0)	5 (0.1)
	女	2,651 (100)	14 (0.5)	125 (4.7)	597 (22.5)	1,913 (72.2)	2 (0.1)
年齢別	0-5か月	457 (100)	5 (1.1)	19 (4.2)	119 (26.0)	313 (68.5)	1 (0.2)
	6-11か月	1,086 (100)	11 (1.0)	76 (7.0)	274 (25.2)	724 (66.7)	1 (0.1)
	1歳	1,639 (100)	6 (0.4)	84 (5.1)	395 (24.1)	1,152 (70.3)	2 (0.1)
	2歳	895 (100)	3 (0.3)	35 (3.9)	175 (19.6)	680 (76.0)	2 (0.2)
	3歳	687 (100)	5 (0.7)	27 (3.9)	155 (22.6)	499 (72.6)	1 (0.1)
	4歳	537 (100)	2 (0.4)	22 (4.1)	114 (21.2)	399 (74.3)	0 -
	5歳	389 (100)	1 (0.3)	20 (5.1)	84 (21.6)	284 (73.0)	0 -
	6歳	236 (100)	0 -	15 (6.4)	53 (22.5)	168 (71.2)	0 -
	7歳	146 (100)	0 -	6 (4.1)	36 (24.7)	104 (71.2)	0 -
	8歳	71 (100)	0 -	7 (9.9)	22 (31.0)	42 (59.2)	0 -
	9歳	44 (100)	0 -	2 (4.5)	13 (29.5)	29 (65.9)	0 -
	10歳以上	102 (100)	0 -	8 (7.8)	29 (28.4)	65 (63.7)	0 -

\*四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表6]死亡例の情報

	初診年次	性	診断	初診時年齢	死亡時年齢	心障害	死亡原因
症例 1	2017	男	不全型	5歳6月	5歳7月	不明(検査なし)	川崎病
症例 2	2018	男	不全型	0歳6月	0歳6月	急性期瘤あり	動脈瘤破裂 病歴等で川崎病が疑われたケース*
症例 3	2018	男	不定型例	9歳2月	9歳4月	初診時以降巨大瘤あり	EBV関連T/NK細胞リンパ球増殖症
症例 4	2018	女	定型例	1歳7月	2歳0月	急性期以降拡大あり	カテーテル操作時の事故
症例 5	2018	女	不全型	1歳8月	1歳9月	なし	上矢静脈洞血栓塞栓症
症例 6	2018	女	定型例	2歳0月	2歳1月	なし	急性脳症

\*死亡後の解剖・問診から川崎病と診断。発症中に治療なし。

[表7]種類別、性別、年齢別、診断別心障害の出現率

		総数 (%)	巨大瘤 (%)	瘤 (%)	拡大 (%)	狭窄 (%)	心筋梗塞 (%)	弁膜病変 (%)	
初診時	総数	32,528 (100)	11 (0.03)	117 (0.36)	1,248 (3.84)	2 (0.01)	0 —	283 (0.87)	
	性別	男	18,599 (100)	11 (0.06)	81 (0.44)	834 (4.48)	2 (0.01)	0 —	154 (0.83)
		女	13,929 (100)	0 —	36 (0.26)	414 (2.97)	0 —	0 —	129 (0.93)
	年齢別	2歳未満	14,173 (100)	3 (0.02)	56 (0.40)	570 (4.02)	2 (0.01)	0 —	112 (0.79)
		2歳以上	18,355 (100)	8 (0.04)	61 (0.33)	678 (3.69)	0 —	0 —	171 (0.93)
	診断別	定型例	25,661 (100)	10 (0.04)	69 (0.27)	817 (3.18)	2 (0.01)	0 —	221 (0.86)
		不定型例	565 (100)	1 (0.18)	34 (6.02)	322 (56.99)	0 —	0 —	6 (1.06)
		不全型	6,289 (100)	0 —	14 (0.22)	109 (1.73)	0 —	0 —	56 (0.89)
急性期	総数	32,528 (100)	35 (0.11)	309 (0.95)	2,120 (6.52)	6 (0.02)	4 (0.01)	503 (1.55)	
	性別	男	18,599 (100)	29 (0.16)	219 (1.18)	1,370 (7.37)	5 (0.03)	4 (0.02)	272 (1.46)
		女	13,929 (100)	6 (0.04)	90 (0.65)	750 (5.38)	1 (0.01)	0 —	231 (1.66)
	年齢別	2歳未満	14,173 (100)	14 (0.10)	152 (1.07)	1,019 (7.19)	4 (0.03)	2 (0.01)	196 (1.38)
		2歳以上	18,355 (100)	21 (0.11)	157 (0.86)	1,101 (6.00)	2 (0.01)	2 (0.01)	307 (1.67)
	診断別	定型例	25,661 (100)	29 (0.11)	215 (0.84)	1,450 (5.65)	4 (0.02)	4 (0.02)	401 (1.56)
		不定型例	565 (100)	5 (0.88)	65 (11.50)	485 (85.84)	2 (0.35)	0 —	11 (1.95)
		不全型	6,289 (100)	1 (0.02)	29 (0.46)	185 (2.94)	0 —	0 —	91 (1.45)
後遺症	総数	32,528 (100)	36 (0.11)	206 (0.63)	488 (1.50)	6 (0.02)	1 (0.003)	164 (0.50)	
	性別	男	18,599 (100)	32 (0.17)	152 (0.82)	319 (1.72)	5 (0.03)	1 (0.01)	78 (0.42)
		女	13,929 (100)	4 (0.03)	54 (0.39)	169 (1.21)	1 (0.01)	0 —	86 (0.62)
	年齢別	2歳未満	14,173 (100)	15 (0.11)	98 (0.69)	256 (1.81)	4 (0.03)	0 —	54 (0.38)
		2歳以上	18,355 (100)	21 (0.11)	108 (0.59)	232 (1.26)	2 (0.01)	1 (0.01)	110 (0.60)
	診断別	定型例	25,661 (100)	29 (0.11)	157 (0.61)	363 (1.41)	4 (0.02)	1 (0.004)	126 (0.49)
		不定型例	565 (100)	6 (1.06)	35 (6.19)	82 (14.51)	1 (0.18)	0 —	4 (0.71)
		不全型	6,289 (100)	1 (0.02)	14 (0.22)	43 (0.68)	1 (0.02)	0 —	34 (0.54)

1人の患者で複数の心障害ありの場合がある。

[表8]年齢別、初診時および初回免疫グロブリン(IG)投与開始時病日の分布

		総数(%)		2歳未満(%)		2歳以上(%)	
初診時病日*	総数	32,524	(100)	14,169	(100)	18,355	(100)
	第1病日	1,170	(3.6)	722	(5.1)	448	(2.4)
	第2病日	4,240	(13.0)	2,231	(15.7)	2,009	(10.9)
	第3病日	7,077	(21.8)	3,185	(22.5)	3,892	(21.2)
	第4病日	8,192	(25.2)	3,471	(24.5)	4,721	(25.7)
	第5病日	6,541	(20.1)	2,614	(18.4)	3,927	(21.4)
	第6病日	2,915	(9.0)	1,099	(7.8)	1,816	(9.9)
	第7病日	1,230	(3.8)	429	(3.0)	801	(4.4)
	第8病日	600	(1.8)	195	(1.4)	405	(2.2)
	第9病日	227	(0.7)	89	(0.6)	138	(0.8)
	第10病日以上	332	(1.0)	134	(0.9)	198	(1.1)
免疫グロブリン(IG)投与開始時病日**	総数	30,749	(100)	13,303	(100)	17,446	(100)
	第1病日	22	(0.1)	15	(0.1)	7	(0.04)
	第2病日	494	(1.6)	307	(2.3)	187	(1.1)
	第3病日	2,795	(9.1)	1,585	(11.9)	1,210	(6.9)
	第4病日	7,757	(25.2)	3,690	(27.7)	4,067	(23.3)
	第5病日	10,710	(34.8)	4,428	(33.3)	6,282	(36.0)
	第6病日	5,046	(16.4)	1,882	(14.1)	3,164	(18.1)
	第7病日	2,257	(7.3)	764	(5.7)	1,493	(8.6)
	第8病日	887	(2.9)	291	(2.2)	596	(3.4)
	第9病日	367	(1.2)	146	(1.1)	221	(1.3)
	第10病日以上	414	(1.3)	195	(1.5)	219	(1.3)

\*初診時病日不明(入院中含む)4人を除く32,524人を集計した。

\*\*初回免疫グロブリン(IG)使用例30,784人のうち1日投与量、投与日数、投与開始時病日不明35人を除く30,749人を集計した。

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表9]性別、年齢別、初回免疫グロブリン(IG)使用の割合

		総数(%)		免疫グロブリン(IG)使用なし(%)		免疫グロブリン(IG)使用あり(%)	
総数		32,528	(100)	1,744	(5.4)	30,784	(94.6)
性別	男	18,599	(100)	991	(5.3)	17,608	(94.7)
	女	13,929	(100)	753	(5.4)	13,176	(94.6)
年齢別	0-5か月	1,832	(100)	90	(4.9)	1,742	(95.1)
	6-11か月	4,309	(100)	278	(6.5)	4,031	(93.5)
	1歳	8,032	(100)	480	(6.0)	7,552	(94.0)
	2歳	6,213	(100)	283	(4.6)	5,930	(95.4)
	3歳	4,724	(100)	218	(4.6)	4,506	(95.4)
	4歳	3,127	(100)	159	(5.1)	2,968	(94.9)
	5歳	1,863	(100)	91	(4.9)	1,772	(95.1)
	6歳	1,008	(100)	49	(4.9)	959	(95.1)
	7歳	526	(100)	37	(7.0)	489	(93.0)
	8歳	326	(100)	23	(7.1)	303	(92.9)
	9歳	193	(100)	13	(6.7)	180	(93.3)
	10歳以上	375	(100)	23	(6.1)	352	(93.9)

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表10]性別、年齢別、初回免疫グロブリン(IG)使用ありの内訳

		免疫グロブリン(IG)使用あり(%)		免疫グロブリン(IG)使用あり(不応例でない)(%)		免疫グロブリン(IG)使用あり(不応例)(%)	
総数*		30,784	(100)	24,723	(80.3)	6,061	(19.7)
性別	男	17,608	(100)	13,978	(79.4)	3,630	(20.6)
	女	13,176	(100)	10,745	(81.5)	2,431	(18.5)
年齢別	0-5か月	1,742	(100)	1,404	(80.6)	338	(19.4)
	6-11か月	4,031	(100)	3,427	(85.0)	604	(15.0)
	1歳	7,552	(100)	6,152	(81.5)	1,400	(18.5)
	2歳	5,930	(100)	4,696	(79.2)	1,234	(20.8)
	3歳	4,506	(100)	3,573	(79.3)	933	(20.7)
	4歳	2,968	(100)	2,343	(78.9)	625	(21.1)
	5歳	1,772	(100)	1,360	(76.7)	412	(23.3)
	6歳	959	(100)	750	(78.2)	209	(21.8)
	7歳	489	(100)	380	(77.7)	109	(22.3)
	8歳	303	(100)	231	(76.2)	72	(23.8)
	9歳	180	(100)	136	(75.6)	44	(24.4)
	10歳以上	352	(100)	271	(77.0)	81	(23.0)

\*初回免疫グロブリン(IG)使用例 30,784人を集計した。

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。



[表11]性別、年齢別、診断別、ステロイド併用の割合

		初回免疫グロブリン (IG)使用例(%)		ステロイド併用あり (%)			パルス (%)			パルス以外 (%)		
総数*		30,784	(100)	4,076	(13.2)	[100]	699	(2.3)	[17.1]	3,447	(11.2)	[84.6]
性別	男	17,608	(100)	2,394	(13.6)	[100]	434	(2.5)	[18.1]	2,004	(11.4)	[83.7]
	女	13,176	(100)	1,682	(12.8)	[100]	265	(2.0)	[15.8]	1,443	(11.0)	[85.8]
年齢別	0-5か月	1,742	(100)	175	(10.0)	[100]	36	(2.1)	[20.6]	144	(8.3)	[82.3]
	6-11か月	4,031	(100)	480	(11.9)	[100]	87	(2.2)	[18.1]	402	(10.0)	[83.8]
	1歳	7,552	(100)	738	(9.8)	[100]	144	(1.9)	[19.5]	604	(8.0)	[81.8]
	2歳-4歳	13,404	(100)	1,941	(14.5)	[100]	323	(2.4)	[16.6]	1,657	(12.4)	[85.4]
	5歳-9歳	3,703	(100)	681	(18.4)	[100]	93	(2.5)	[13.7]	595	(16.1)	[87.4]
	10歳以上	352	(100)	61	(17.3)	[100]	16	(4.5)	[26.2]	45	(12.8)	[73.8]
診断別	定型例	25,015	(100)	3,463	(13.8)	[100]	581	(2.3)	[16.8]	2,934	(11.7)	[84.7]
	不定型例	527	(100)	67	(12.7)	[100]	10	(1.9)	[14.9]	58	(11.0)	[86.6]
	不全型	5,242	(100)	546	(10.4)	[100]	108	(2.1)	[19.8]	455	(8.7)	[83.3]

\* ( )内は初回免疫グロブリン(IG)使用例 30,784人を集計した。

\* [ ]内はステロイド併用あり 4,076人を集計した。1人の患者に両方用いている例があるため、横の合計は総数を超えることがある。

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表12]性別、年齢別、初回免疫グロブリン(IG)投与医療機関の内訳

		総数(%)		報告施設で投与 (%)		前医で投与 (%)		その他・不明 (%)	
総数*		30,756	(100)	30,042	(97.7)	361	(1.2)	353	(1.1)
性別	男	17,592	(100)	17,151	(97.5)	225	(1.3)	216	(1.2)
	女	13,164	(100)	12,891	(97.9)	136	1.0	137	(1.0)
年齢別	0-5か月	1,739	(100)	1,688	(97.1)	26	(1.5)	25	(1.4)
	6-11か月	4,027	(100)	3,941	(97.9)	41	(1.0)	45	(1.1)
	1歳	7,543	(100)	7,382	(97.9)	68	(0.9)	93	(1.2)
	2歳	5,925	(100)	5,780	(97.6)	79	(1.3)	66	(1.1)
	3歳	4,503	(100)	4,386	(97.4)	58	(1.3)	59	(1.3)
	4歳	2,968	(100)	2,908	(98.0)	27	(0.9)	33	(1.1)
	5歳	1,770	(100)	1,738	98.2	23	(1.3)	9	(0.5)
	6歳	958	(100)	937	(97.8)	13	(1.4)	8	(0.8)
	7歳	488	(100)	472	96.7	8	(1.6)	8	(1.6)
	8歳	303	(100)	298	(98.3)	4	(1.3)	1	(0.3)
	9歳	180	(100)	172	(95.6)	6	(3.3)	2	(1.1)
10歳以上	352	(100)	340	(96.6)	8	(2.3)	4	(1.1)	

\*初回免疫グロブリン(IG)使用例 30,784人のうち1日投与量、投与日数不明 28人を除く 30,756人を集計した。

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表13]初回免疫グロブリン(IG)1日投与量(mg/kg)別、投与日数の分布

		総数および%		1日	2日	3日	4日	5日以上
総数*		30,756 (100)	[100]	30,141 (98.0)	596 (1.94)	7 (0.02)	2 (0.01)	10 (0.03)
-299mg/kg		10	[0.03]	3	1	0	0	6
300-499mg/kg		7	[0.02]	3	0	1	0	3
500-699mg/kg		11	[0.04]	2	2	5	1	1
700-899mg/kg		4	[0.01]	2	1	1	0	0
900-1099mg/kg		754	[2.45]	255	498	0	1	0
1100-1299mg/kg		36	[0.12]	24	12	0	0	0
1300-1499mg/kg		12	[0.04]	10	2	0	0	0
1500-1699mg/kg		24	[0.08]	21	3	0	0	0
1700-1899mg/kg		174	[0.57]	173	1	0	0	0
1900-2099mg/kg		29,443	[95.7]	29,368	75	0	0	0
2100mg/kg+		281	[0.91]	280	1	0	0	0
再掲	200mg/kg	6	[0.02]	0	0	0	0	6
	400mg/kg	7	[0.02]	3	0	1	0	3
	1000mg/kg	684	[2.22]	236	447	0	1	0
	2000mg/kg	28,786	[93.6]	28,717	69	0	0	0
	その他	1,273	[4.14]	1,185	80	6	1	1

\*初回免疫グロブリン(IG)使用例 30,784人のうち1日投与量、投与日数不明 28人を除く、30,756人を集計した。  
( )内は横向きのを示す。

[表14]性別、年齢別、診断別、初回免疫グロブリン(IG)投与後の追加治療法

		総数 (%)	免疫グロブリン (IG)追加投与 (%)	ステロイド投与 (%)	インフリキシマ ブ投与 (%)	免疫抑制剤 投与 (%)	血漿交換 (%)
総数*		30,784 (100)	6,663 (21.6)	1,933 (6.28)	790 (2.57)	449 (1.46)	162 (0.53)
性別	男	17,608 (100)	4,000 (22.7)	1,142 (6.49)	528 (3.00)	283 (1.61)	112 (0.64)
	女	13,176 (100)	2,663 (20.2)	791 (6.00)	262 (1.99)	166 (1.26)	50 (0.38)
年齢別	2歳未満	13,325 (100)	2,637 (19.8)	738 (5.54)	195 (1.46)	186 (1.40)	77 (0.58)
	2歳以上	17,459 (100)	4,026 (23.1)	1,195 (6.84)	595 (3.41)	263 (1.51)	85 (0.49)
診断別	定型例	25,015 (100)	5,665 (22.6)	1,650 (6.60)	721 (2.88)	372 (1.49)	148 (0.59)
	不定型例	527 (100)	140 (26.6)	31 (5.88)	24 (4.55)	27 (5.12)	10 (1.90)
	不全型	5,242 (100)	858 (16.4)	252 (4.81)	45 (0.86)	50 (0.95)	4 (0.08)

\*初回免疫グロブリン(IG)使用例 30,784人を集計した。  
1人の患者に複数の治療法を用いている例がある。

[表15]性別、年齢別、診断別、初回免疫グロブリン(IG)投与後の追加治療法(初回(IG)不応例)

		総数 (%)	免疫グロブリン (IG)追加投与 (%)	ステロイド投与 (%)	インフリキシマ ブ投与 (%)	免疫抑制剤投 与 (%)	血漿交換 (%)
総数*		6,061 (100)	5,523 (91.1)	1,503 (24.8)	731 (12.1)	393 (6.5)	156 (2.6)
性別	男	3,630 (100)	3,329 (91.7)	888 (24.5)	485 (13.4)	246 (6.8)	108 (3.0)
	女	2,431 (100)	2,194 (90.3)	615 (25.3)	246 (10.1)	147 (6.0)	48 (2.0)
年齢別	2歳未満	2,342 (100)	2,149 (91.8)	583 (24.9)	182 (7.8)	162 (6.9)	76 (3.2)
	2歳以上	3,719 (100)	3,374 (90.7)	920 (24.7)	549 (14.8)	231 (6.2)	80 (2.2)
診断別	定型例	5,156 (100)	4,736 (91.9)	1,290 (25.0)	666 (12.9)	332 (6.4)	143 (2.8)
	不定型例	133 (100)	116 (87.2)	26 (19.5)	23 (17.3)	20 (15.0)	9 (6.8)
	不全型	772 (100)	671 (86.9)	187 (24.2)	42 (5.4)	41 (5.3)	4 (0.5)

\*初回免疫グロブリン(IG)使用例 30,784人のうち不応例 6,061人を集計した。  
1人の患者に複数の治療法を用いている例があるので、横の合計は総数を超えることがある。

[表16]性別、年齢別、診断別、初診前1週間以内の抗生剤使用の割合

		総数 (%)		抗生剤 使用なし (%)		抗生剤 使用あり (%)		抗生剤 使用不明 (%)	
総数		32,528	(100)	16,858	(51.8)	14,156	(43.5)	1,514	(4.7)
性別	男	18,599	(100)	9,688	(52.1)	8,060	(43.3)	851	(4.6)
	女	13,929	(100)	7,170	(51.5)	6,096	(43.8)	663	(4.8)
年齢別	0-5か月	1,832	(100)	1,190	(65.0)	548	(29.9)	94	(5.1)
	6-11か月	4,309	(100)	2,783	(64.6)	1,289	(29.9)	237	(5.5)
	1歳	8,032	(100)	4,666	(58.1)	2,972	(37.0)	394	(4.9)
	2歳	6,213	(100)	3,167	(51.0)	2,736	(44.0)	310	(5.0)
	3歳	4,724	(100)	2,142	(45.3)	2,387	(50.5)	195	(4.1)
	4歳	3,127	(100)	1,319	(42.2)	1,690	(54.0)	118	(3.8)
	5歳	1,863	(100)	730	(39.2)	1,058	(56.8)	75	(4.0)
	6歳	1,008	(100)	363	(36.0)	610	(60.5)	35	(3.5)
	7歳	526	(100)	183	(34.8)	319	(60.6)	24	(4.6)
	8歳	326	(100)	104	(31.9)	211	(64.7)	11	(3.4)
	9歳	193	(100)	77	(39.9)	108	(56.0)	8	(4.1)
10歳以上	375	(100)	134	(35.7)	228	(60.8)	13	(3.5)	
診断別*	定型例	25,661	(100)	13,365	(52.1)	11,148	(43.4)	1,148	(4.5)
	不定型例	565	(100)	266	(47.1)	267	(47.3)	32	(5.7)
	不全型	6,289	(100)	3,227	(51.3)	2,740	(43.6)	322	(5.1)

\* 診断不明13人は集計から除いた

[表17]薬剤別、性別、年齢別、初診前1週間以内の抗生剤使用の割合(使用ありのみ集計)

		総数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
			ペニシリン	セフェム	マクロライド	ニューキノロン	カルバペネム	テトラサイクリン	ベネム	ホスホマイシン	リンコマイシン	アミノグリコシド	グリコペプチド	抗ウイルス薬	その他	不明
総数		14,156	3,187	8,465	758	574	245	25	139	124	28	1	2	21	9	578
性別	男	8,060	1,859	4,762	427	329	145	18	76	74	15	0	2	10	4	339
	女	6,096	1,328	3,703	331	245	100	7	63	50	13	1	0	11	5	239
年齢別	0-5か月	548	134	362	17	7	6	0	3	5	1	0	1	1	0	11
	6-11か月	1,289	333	741	62	45	24	1	11	12	0	0	0	3	1	56
	1歳	2,972	703	1,681	165	169	56	5	29	26	3	0	0	2	4	129
	2歳	2,736	674	1,574	147	114	49	2	26	23	1	0	0	4	2	120
	3歳	2,387	502	1,456	127	93	39	2	30	29	2	0	1	3	1	102
	4歳	1,690	383	1,028	83	54	35	2	15	14	7	1	0	5	1	62
	5歳	1,058	194	680	55	43	17	3	10	3	6	0	0	2	0	45
	6歳	610	111	399	37	15	8	1	6	6	3	0	0	0	0	24
	7歳	319	74	198	17	9	4	0	3	2	2	0	0	0	0	10
	8歳	211	27	143	19	8	1	0	3	1	1	0	0	1	0	7
	9歳	108	18	67	12	2	1	2	1	0	1	0	0	0	0	4
	10歳以上	228	34	136	17	15	5	7	2	3	1	0	0	0	0	8

[表18]性別、年齢別、診断別、両親の川崎病既往歴の割合

		総数(%)		両親の既往歴なし(%)		両親の既往歴あり(%)		両親の既往歴不明(%)	
総数		32,528	(100)	28,264	(86.9)	419	(1.3)	3,845	(11.8)
性別	男	18,599	(100)	16,145	(86.8)	231	(1.2)	2,223	(12.0)
	女	13,929	(100)	12,119	(87.0)	188	(1.3)	1,622	(11.6)
年齢別	0-5か月	1,832	(100)	1,587	(86.6)	21	(1.1)	224	(12.2)
	6-11か月	4,309	(100)	3,718	(86.3)	50	(1.2)	541	(12.6)
	1歳	8,032	(100)	7,025	(87.5)	100	(1.2)	907	(11.3)
	2歳	6,213	(100)	5,348	(86.1)	84	(1.4)	781	(12.6)
	3歳	4,724	(100)	4,121	(87.2)	71	(1.5)	532	(11.3)
	4歳	3,127	(100)	2,690	(86.0)	42	(1.3)	395	(12.6)
	5歳	1,863	(100)	1,628	(87.4)	24	(1.3)	211	(11.3)
	6歳	1,008	(100)	883	(87.6)	11	(1.1)	114	(11.3)
	7歳	526	(100)	461	(87.6)	8	(1.5)	57	(10.8)
	8歳	326	(100)	286	(87.7)	5	(1.5)	35	(10.7)
	9歳	193	(100)	174	(90.2)	0	—	19	(9.8)
10歳以上	375	(100)	343	(91.5)	3	(0.8)	29	(7.7)	
診断別*	定型例	25,661	(100)	22,488	(87.6)	333	(1.3)	2,840	(11.1)
	不定型例	565	(100)	482	(85.3)	9	(1.6)	74	(13.1)
	不全型	6,289	(100)	5,293	(84.2)	77	(1.2)	919	(14.6)

\* 診断不明13人は集計から除いた

[表19]性別、両親の川崎病既往歴(内訳) 既往ありのみ

		総数(%)		両親の既往歴 父 (%)		両親の既往歴 母 (%)		両親の既往歴 両方 (%)	
総数*		419	(100)	214	(51.1)	199	(47.5)	5	(1.2)
性別	男	231	(100)	121	(52.4)	106	(45.9)	4	(1.7)
	女	188	(100)	93	(49.5)	93	(49.5)	1	(0.5)

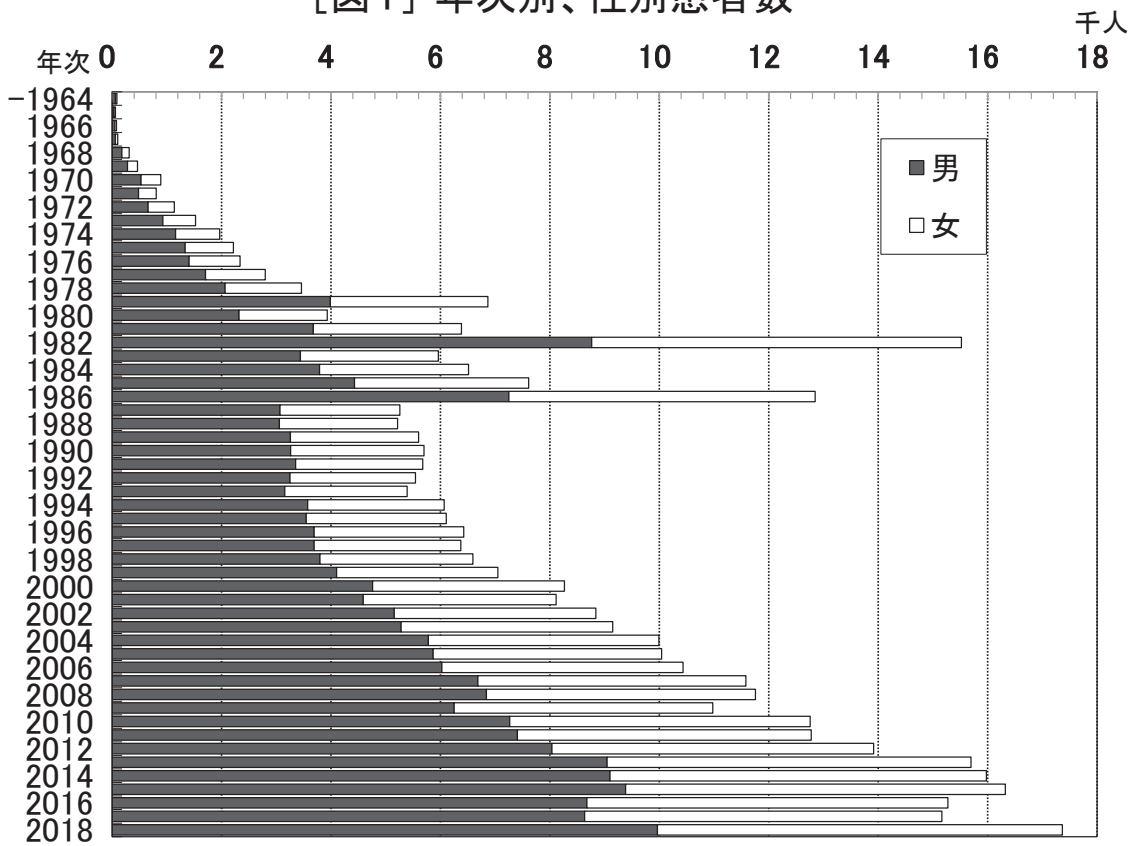
\* 父母の別不明1人は集計から除いた

[表20]性別、年齢別、心障害の有無別、診断別、転院の割合

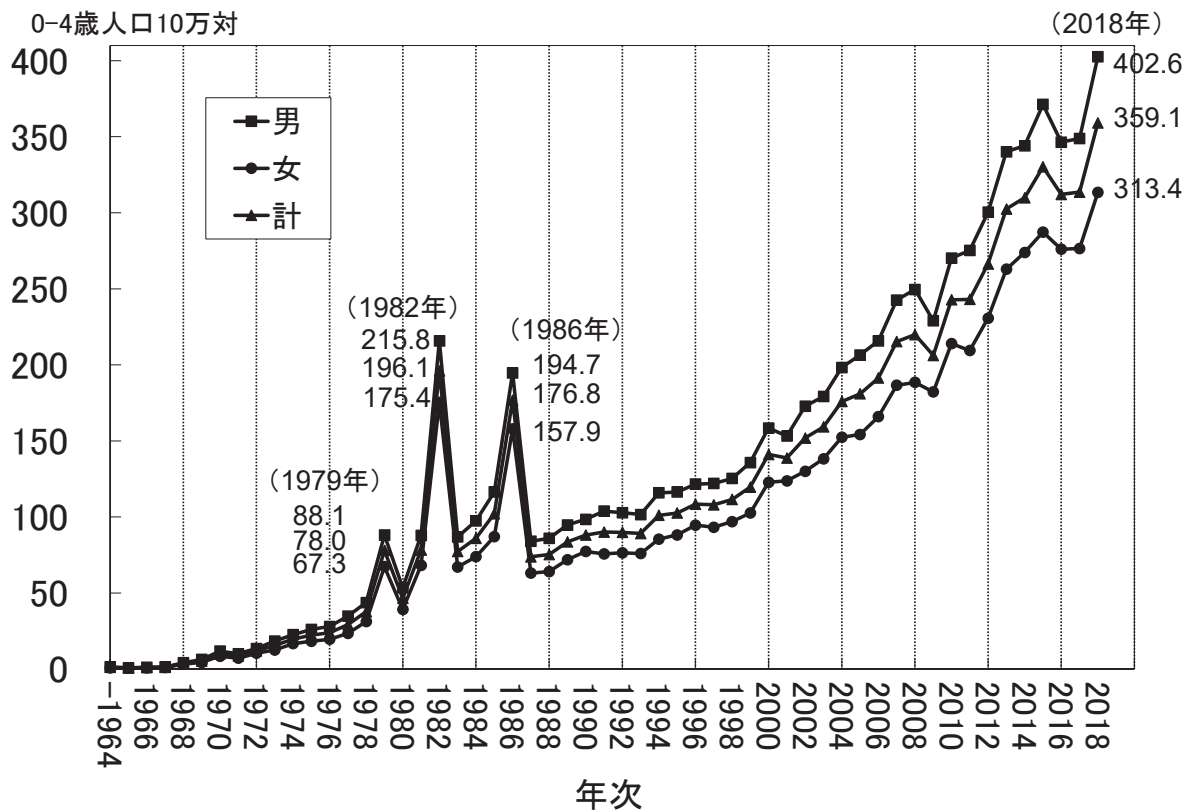
総数		総数(%)		転院あり(%)		
		32,528	(100)	1,706	(5.2)	
性別	男	18,599	(100)	1,075	(5.8)	
	女	13,929	(100)	631	(4.5)	
年齢別	0-5か月	1,832	(100)	125	(6.8)	
	6-11か月	4,309	(100)	202	(4.7)	
	1歳	8,032	(100)	384	(4.8)	
	2歳-4歳	14,064	(100)	768	(5.5)	
	5歳-9歳	3,916	(100)	192	(4.9)	
	10歳以上	375	(100)	35	(9.3)	
心障害	初診時の異常	あり	1,604	(100)	228	(14.2)
		なし	30,732	(100)	1,334	(4.3)
		不明	192	(100)	144	(75.0)
	急性期の異常	あり	2,901	(100)	398	(13.7)
		なし	29,335	(100)	1,048	(3.6)
		不明	292	(100)	260	(89.0)
	後遺症	あり	845	(100)	143	(16.9)
		なし	31,030	(100)	1,091	(3.5)
		不明	653	(100)	472	(72.3)
診断別*	定型例	25,661	(100)	1,396	(5.4)	
	不定型例	565	(100)	58	(10.3)	
	不全型	6,289	(100)	239	(3.8)	

\*「診断の確実度」不明13人は表から除いた。

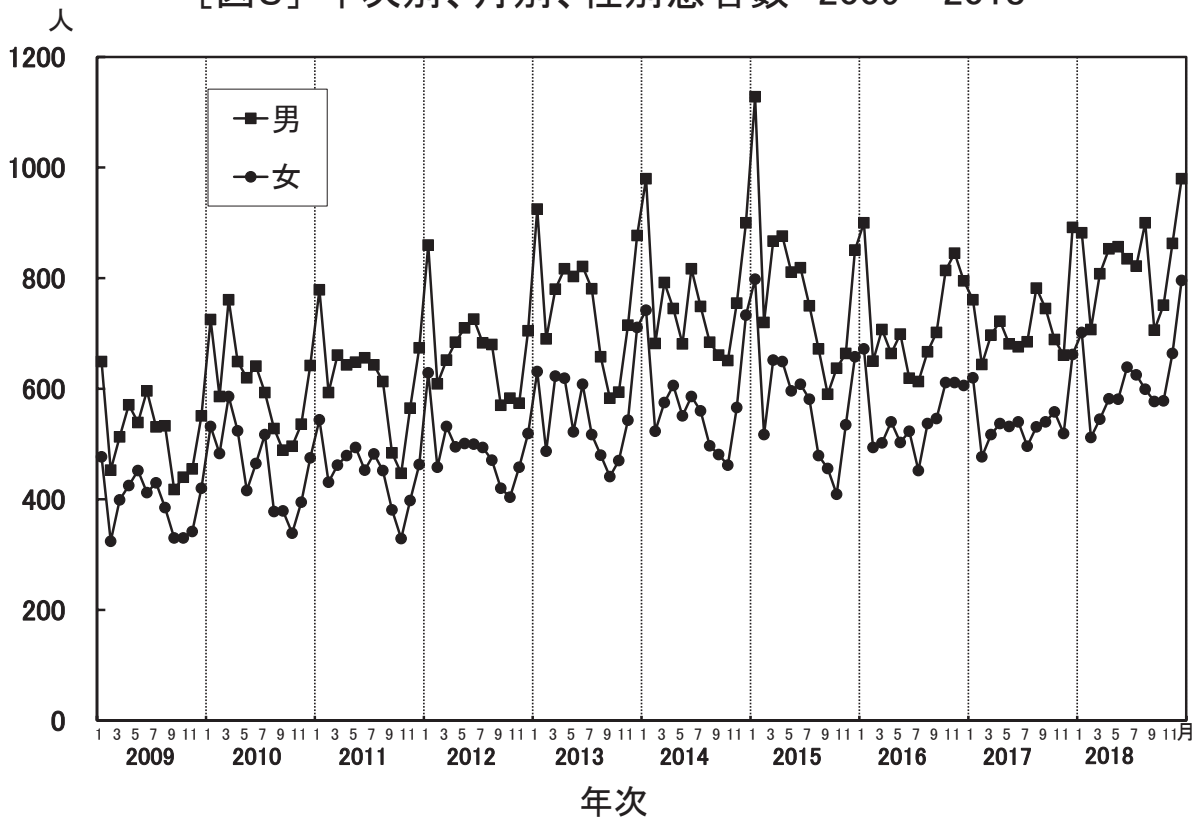
[図1] 年次別、性別患者数



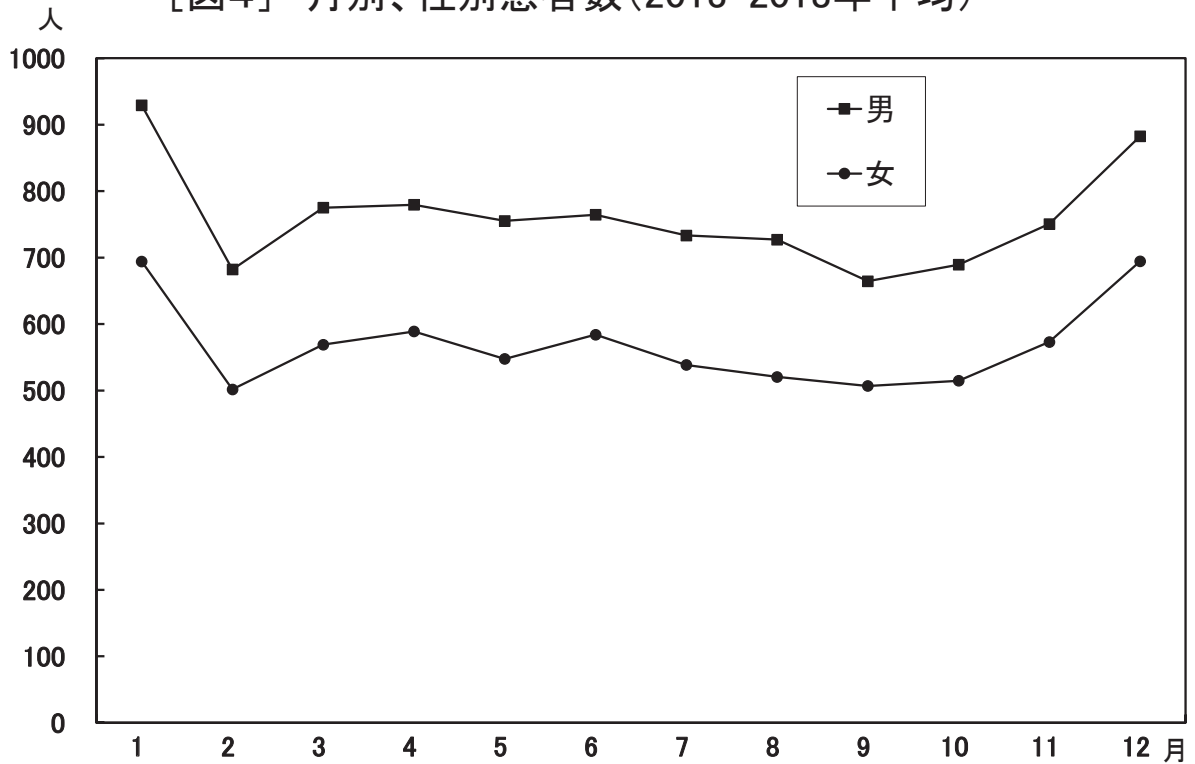
[図2] 年次別、性別罹患率



[图3] 年次別、月別、性別患者数 2009—2018

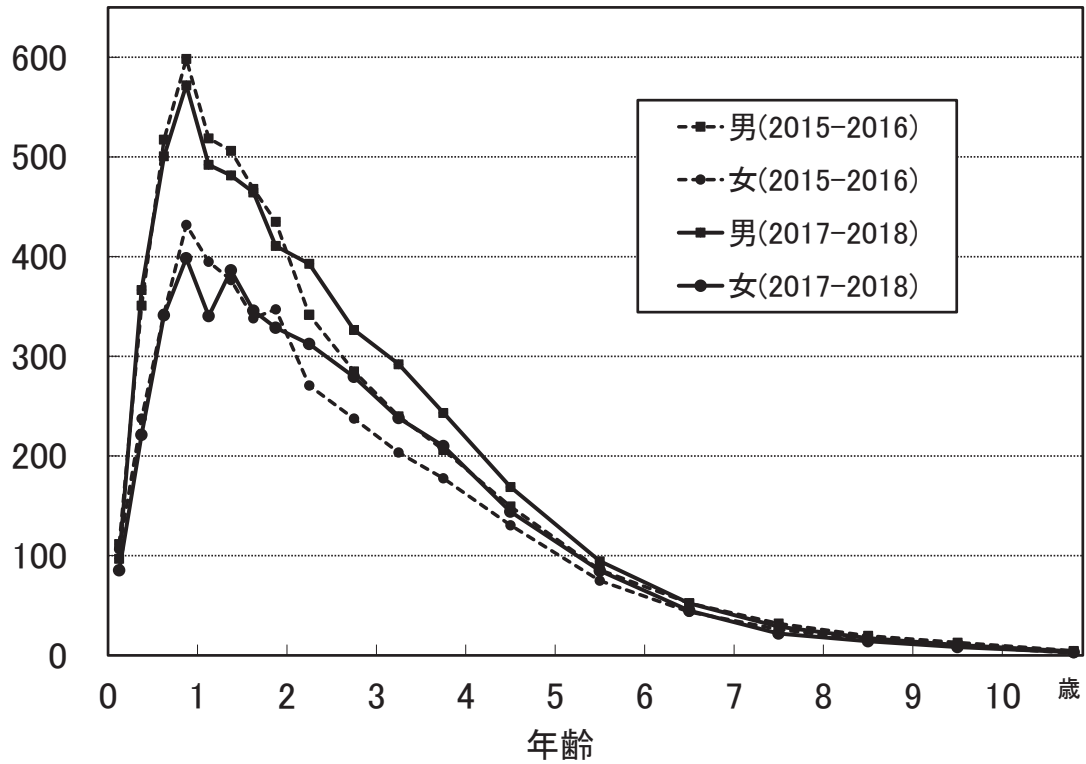


[图4] 月別、性別患者数(2013-2018年平均)

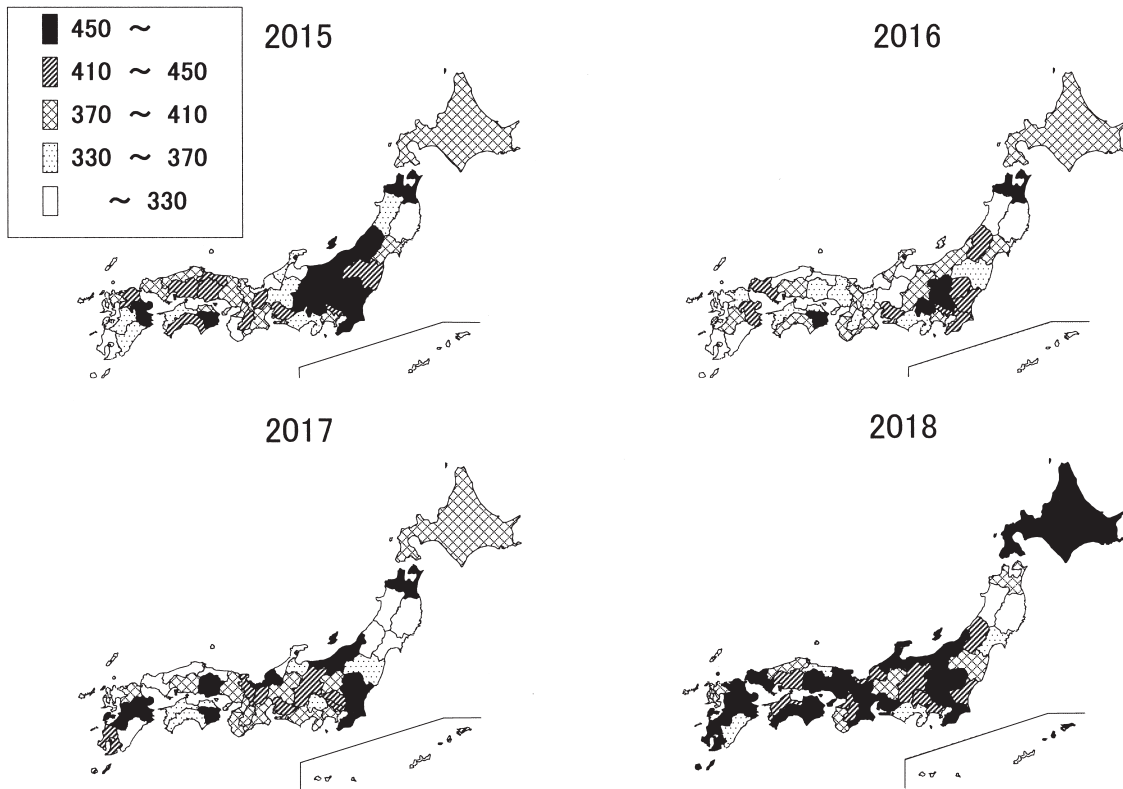


[図5] 年次別、性別、年齢別罹患率  
(2015-2016年平均、2017-2018年平均)

人口10万対

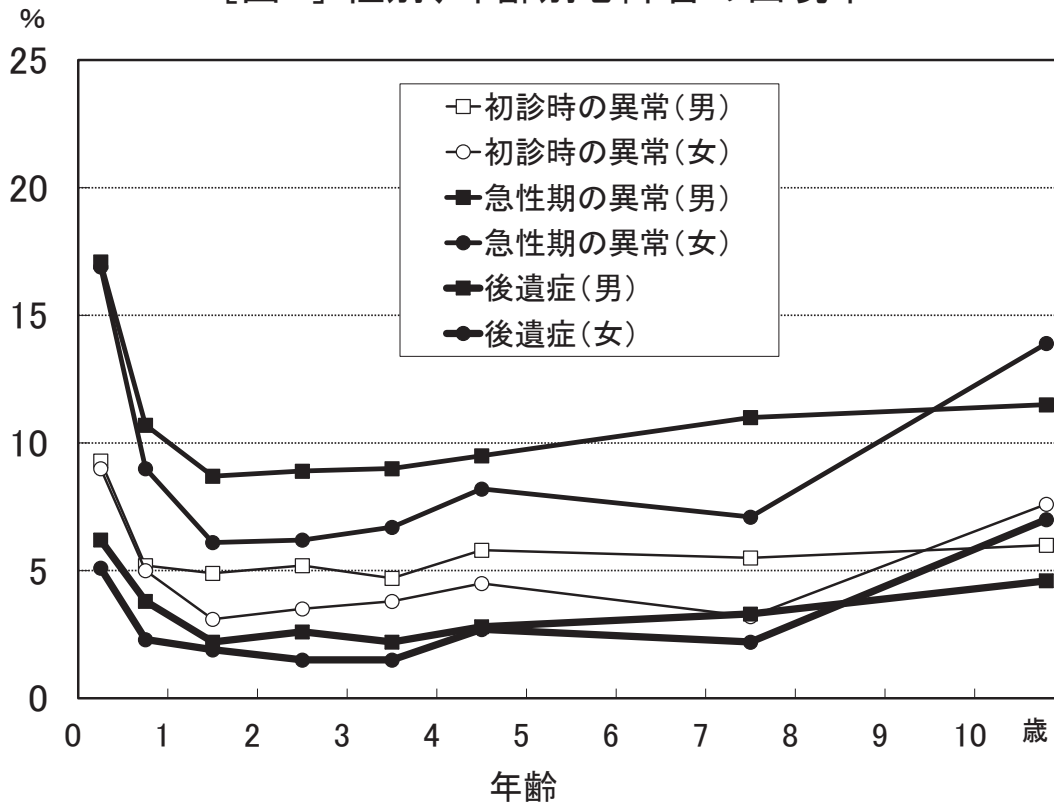


[図6] 年次別、都道府県別罹患率

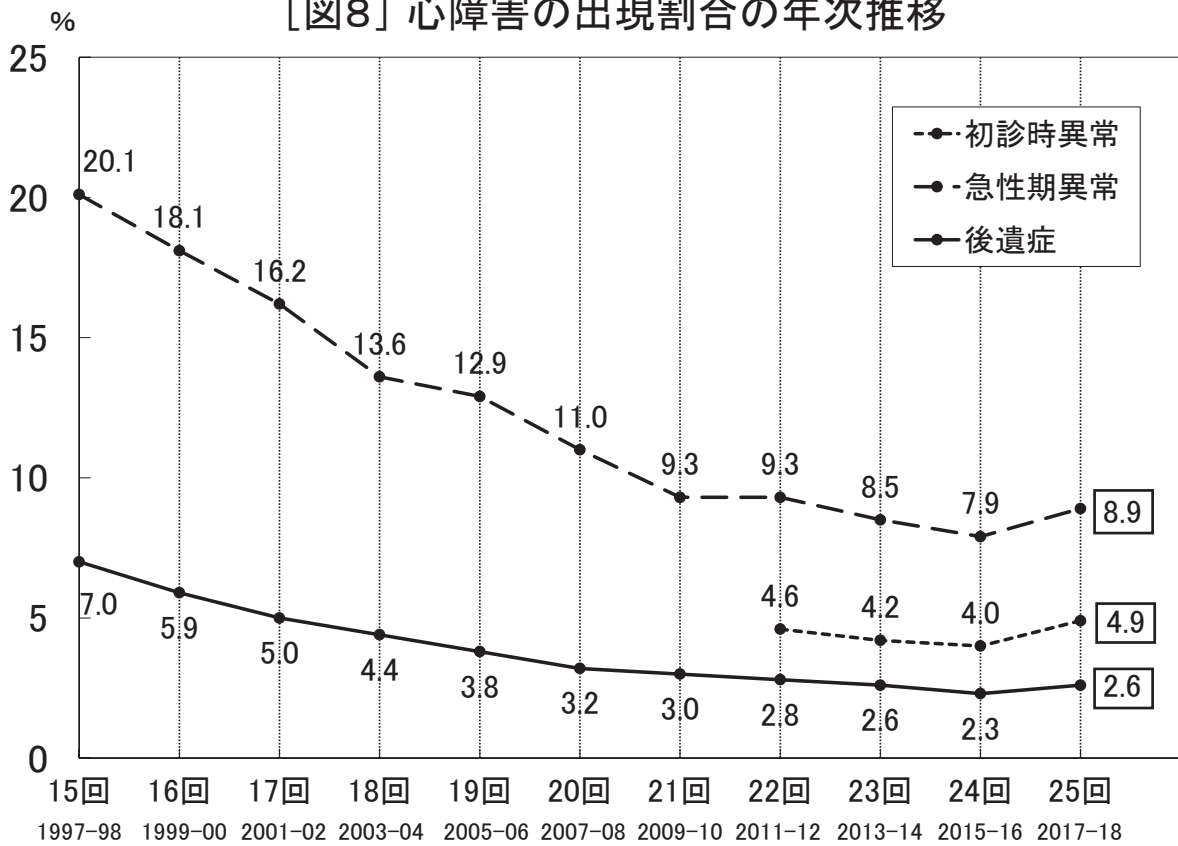




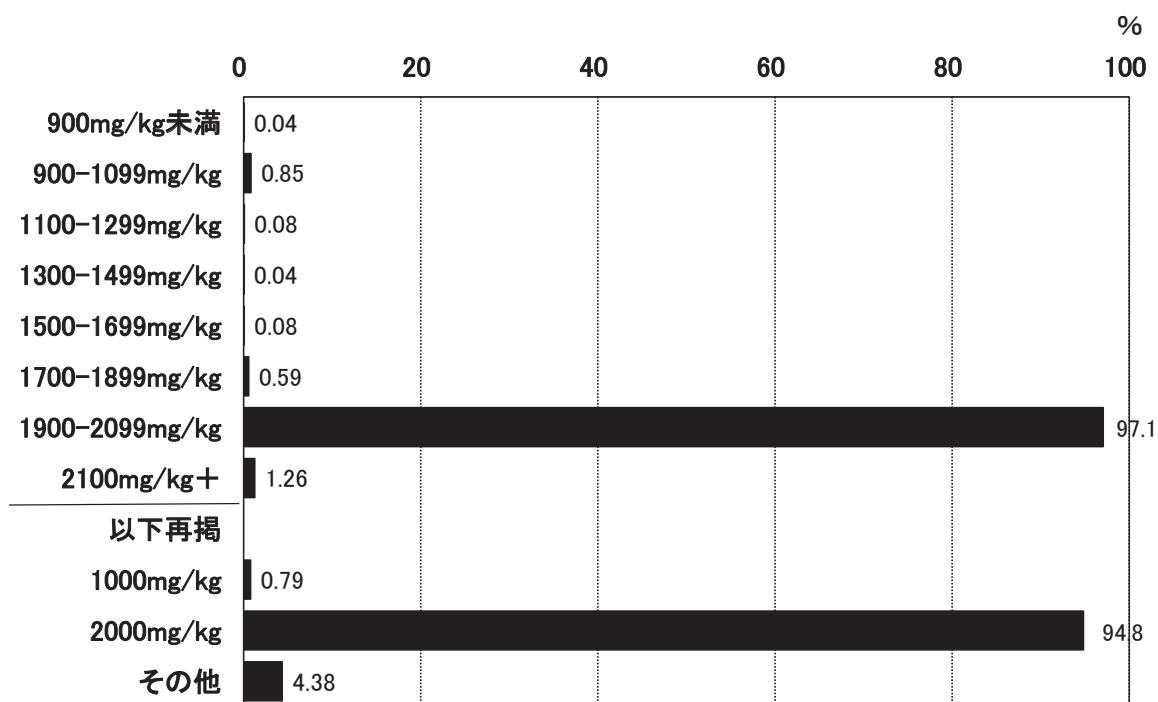
[図7] 性別、年齢別心障害の出現率



[図8] 心障害の出現割合の年次推移



[図9] 初回免疫グロブリン(IG)使用総量の分布



\* 初回IG使用例30,784人のうち1日投与量、投与日数不明28人を除く30,756人を集計

## 第25回全国調査協力施設名（都道府県別、順不同）

### 1. 北海道

(独)国立病院機構旭川医療センター  
NTT 東日本札幌病院  
札幌医科大学附属病院  
道立旭川肢体不自由児総合療育センター  
道立羽幌病院  
市立札幌病院  
小樽市立病院  
市立函館病院  
江別市立病院  
市立千歳市民病院  
岩見沢市立総合病院  
市立美瑛病院  
砂川市立病院  
滝川市立病院  
あかびら市立病院  
深川市立病院  
市立旭川病院  
名寄市立総合病院  
苫小牧市立病院  
町立中標津病院  
町立別海病院  
市立稚内病院  
留萌市立病院  
旭川赤十字病院  
浦河赤十字病院  
清水赤十字病院  
総合病院釧路赤十字病院  
総合病院北見赤十字病院  
北海道社会事業協会・余市病院  
社会事業協会・岩内病院  
社会事業協会・帯広病院  
JA 北海道厚生連札幌厚生病院  
JA 北海道厚生連旭川厚生病院  
JA 北海道厚生連帯広厚生病院  
JA 北海道厚生連網走厚生病院  
JA 北海道厚生連遠軽厚生病院  
JCHO 北海道病院  
製鉄記念室蘭病院  
社会医療法人母恋日鋼記念病院  
王子総合病院  
共愛会病院  
天使病院  
勤医協札幌病院  
医療法人札幌会五輪橋マタニティクリニック  
日高徳洲会病院  
慶愛病院  
町立松前病院  
北楡会札幌北楡病院  
北海道済生会西小樽病院みどりの里  
北海道立子ども総合医療・療育センター  
北光会 朝里中央病院  
北斗病院小児科子ども総合センター  
自衛隊札幌病院  
木古内町国民健康保険病院  
KKR 札幌医療センター  
北海道社会事業協会・洞爺病院  
国立大学法人旭川医科大学医学部附属病院  
北海道療育園  
(医社)友愛会恵愛病院  
社会医療法人恵和会 恵庭第一病院  
医療法人徳洲会札幌徳洲会病院  
手稲溪仁会病院  
(医療法人)北農会恵み野病院  
豊岡中央病院  
シロアム子どもクリニック

### 2. 青森県

独立行政法人国立病院機構弘前病院  
国立大学法人弘前大学医学部附属病院  
青森県立中央病院  
青森市民病院  
八戸市立市民病院  
国民健康保険五戸総合病院  
つがる西北五広域連合つがる総合病院  
つがる西北五広域連合かなぎ病院  
公立七戸病院  
十和田市立中央病院  
国保三戸中央病院  
八戸赤十字病院  
青森県立はまなす医療療育センター  
市立三沢病院  
(医療)誠仁会 尾野病院  
弘前市立病院  
独立行政法人国立病院機構青森病院  
津軽保健生活協同組合健生病院  
医療法人赤心会十和田東病院

### 3. 岩手県

岩手県立釜石病院  
岩手県立宮古病院  
岩手県立胆沢病院  
岩手県立磐井病院  
岩手県立高田病院  
岩手県立大船渡病院  
岩手県立二戸病院  
岩手県立江刺病院  
奥州市総合水沢病院  
北上済生会病院  
宝陽病院  
盛岡友愛病院  
岩手県立中部病院  
独立行政法人国立病院機構釜石病院  
岩手県立山田病院  
川久保病院  
東八幡平病院

### 4. 宮城県

国立病院機構仙台医療センター  
東北大学病院  
J R 仙台病院  
仙台市立病院  
気仙沼市立病院  
南三陸病院  
公立刈田総合病院  
みやぎ県南中核病院  
公立黒川病院  
登米市民病院  
総合病院仙台赤十字病院  
(財)宮城厚生協会坂総合病院  
真壁病院  
仙台エコー医療療育センター  
東北医科薬科大学病院小児科  
独立行政法人国立病院機構西多賀病院  
光ヶ丘スベルマン病院  
東北労災病院  
自衛隊仙台病院  
登米市立米谷病院

### 5. 秋田県

大館市立総合病院  
男鹿みなと市民病院  
秋田市立秋田総合病院

仙北市立角館総合病院  
市立横手病院  
秋田赤十字病院  
J A 秋田厚生連 かづの厚生病院  
能代厚生医療センター  
湖東総合病院  
秋田厚生医療センター  
由利組合総合病院  
大曲厚生医療センター  
平鹿総合病院  
雄勝中央病院  
中通総合病院  
地域医療機能推進機構秋田病院  
市立大森病院  
秋田県立医療療育センター  
秋田大学医学部附属病院  
北秋田市民病院  
藤原記念病院

### 6. 山形県

山形県立中央病院  
山形県立新庄病院  
天童市民病院  
山形市立病院済生館  
北村山公立病院  
鶴岡市立荘内病院  
公立高島病院  
米沢市立病院  
済生会 山形済生病院  
(医療)篠田好生会篠田総合病院  
日本海総合病院  
公立置賜総合病院  
社会医療法人 みゆき会 みゆき会病院  
山形県立河北病院  
独立行政法人国立病院機構米沢病院  
山形大学医学部附属病院  
鶴岡協立病院  
独立行政法人国立病院機構山形病院

### 7. 福島県

福島県立医科大学附属病院  
公立藤田総合病院  
いわき市医療センター  
福島赤十字病院  
坂下厚生総合病院  
(財)大原総合病院  
公益財団法人湯浅報恩会寿泉堂総合病院  
(財)竹田総合病院  
(財)常磐病院  
福島整肢療護園  
(一財)太田総合病院附属太田西ノ内病院  
総合会津中央病院  
医療法人社団青空会大町病院  
新生会内科小児科佐藤医院  
県立南会津病院  
独立行政法人国立病院機構福島病院  
(財)星総合病院  
独立行政法人国立病院機構いわき病院  
医療生協わたり病院  
福島県総合療育センター  
公立相馬総合病院

### 8. 茨城県

独立行政法人国立病院機構霞ヶ浦医療センター  
水戸済生会総合病院  
神栖済生会病院

総合病院土浦協同病院  
総合病院東京医科大学茨城医療センター  
日立製作所 ひたちなか総合病院  
城南病院  
石岡第一病院  
つくばセントラル病院  
県立こども病院  
威恵会三岳荘小松崎病院  
土浦協同病院なめがた地域医療センター  
水海道西部病院  
龍ヶ崎済生会病院  
常陸大宮済生会病院  
特定医療法人社団 同樹会 結城病院  
茨城県西部メディカルセンター  
(医療) 愛宣会 ひたち医療センター  
株式会社日立製作所日立総合病院  
筑波大学附属病院  
古河赤十字病院  
悼慈会日立港病院  
(医療) 常仁会牛久愛和総合病院  
(財) 筑波学園病院  
(医療) 達生堂 城西病院  
友愛記念病院  
北茨城市民病院  
JA とりで総合医療センター  
医療法人清真会丹野病院  
石岡市医師会病院  
財団法人筑波メディカルセンター病院  
医療法人筑波記念病院  
きぬ医師会病院

## 9. 栃木県

独立行政法人国立病院機構栃木医療センター  
新小山市民病院  
芳賀赤十字病院  
那須赤十字病院  
足利赤十字病院  
済生会 宇都宮病院  
佐野厚生総合病院  
JCHO うつのみや病院  
日光市民病院  
社会医療法人博愛会 菅間記念病院  
独立行政法人国立病院機構宇都宮病院  
光南病院  
医療法人社団友志会 野木病院  
南那須地区広域行政事務組合立那須南病院  
医療法人中山会 宇都宮記念病院  
とちぎメディカルセンターとちのき  
あしかがの森 足利病院  
自治医科大学附属病院  
獨協医科大学病院小児科  
黒須病院  
栃木県立リハビリテーションセンター  
西方病院

## 10. 群馬県

(独)国立病院機構高崎総合医療センター  
群馬大学医学部附属病院  
桐生厚生総合病院  
藤岡総合病院  
碓氷病院  
伊勢崎市民病院  
館林厚生病院  
前橋赤十字病院  
公立富岡総合病院  
群馬中央病院  
利根中央病院  
本島総合病院  
群馬県立小児医療センター  
松沢会希望館病院

西吾妻福祉病院  
産科婦人科館出張佐藤病院  
愛弘会 横田マタニティホスピタル  
前橋協立病院  
重症心身障害児施設はんなさわらび療育園  
療育センターきぼう  
高崎中央病院  
下仁田厚生病院

## 11. 埼玉県

(独)国立病院機構西埼玉中央病院  
(独)国立病院機構埼玉病院  
蕨市立病院  
春日部市立医療センター  
草加市立病院  
さいたま赤十字病院  
埼玉県済生会川口総合病院  
JCHO 埼玉メディカルセンター  
戸田中央総合病院  
(医療) ヘブロン会大宮中央総合病院  
愛友会 上尾中央総合病院  
丸山記念総合病院  
中田病院  
埼玉県済生会栗橋病院  
北里大学メディカルセンター  
医療法人愛和会愛和病院  
川口市立医療センター  
県立小児医療センター  
ヘリオス会病院  
秩父市立病院  
本庄総合病院  
土屋小児病院  
熊谷生協病院  
三愛会総合病院  
医療法人社幸会 行田総合病院  
さいたま市民医療センター  
自治医科大学附属さいたま医療センター  
明理会 イムス富士見総合病院  
埼玉医科大学国際医療センター  
飯能中央病院  
埼玉医科大学病院  
越谷市立病院  
(医社) 新座志木中央総合病院  
(医社) 協友会 吉川中央総合病院  
TMG あさか医療センター  
防衛医科大学校病院  
(医療) 聖仁会 西部総合病院  
埼玉協同病院  
(医社) 青葉会 新座病院  
(医療) 誠壽会 上福岡総合病院  
国立身障者リハビリテーションセンター病院  
(医療) 積仁会 旭ヶ丘病院  
医療法人社団協友会東川口病院  
埼玉医療生活協同組合羽生総合病院  
獨協医科大学埼玉医療センター  
東鷲宮病院  
医療法人社団堀ノ内病院  
東松山市市民病院  
社会医療法人財団石心会埼玉石心会病院

## 12. 千葉県

(独)国立病院機構千葉医療センター  
(独)国立病院機構下志津病院  
千葉大学医学部附属病院  
千葉県循環器病センター  
千葉市立青葉病院  
東京ベイ・浦安市川医療センター  
松戸市立総合医療センター  
総合病院国保旭中央病院  
いすみ医療センター

国保直営総合病院君津中央病院  
成田赤十字病院  
千葉県済生会習志野病院  
医療法人社団誠馨会千葉メディカルセンター  
(医療) 鉄蕉会 亀田総合病院  
東京歯科大学市川総合病院  
キッコーマン総合病院  
千葉西総合病院  
医療法人社団圭春会小張総合病院  
医療法人社団聖仁会白井聖仁会病院  
高根病院  
加藤病院  
千葉県こども病院  
東邦大学医療センター佐倉病院  
日本医科大学千葉北総病院  
国保多古中央病院  
東京女子医科大学附属八千代医療センター  
誠高会 おおたかの森病院  
柏市立柏病院  
蛍水会 名戸ヶ谷あびこ病院  
(地独) 東金九十九里地域医療センター東千葉  
メディカルセンター  
医療法人 芙蓉会 五井病院  
千葉白井病院  
(独)国立病院機構千葉東病院  
(医社) 千葉健生病院  
千葉県千葉リハビリテーションセンター  
(医財) 明理会 行徳総合病院  
(医財) 明理会新松戸中央総合病院  
聖隷佐倉市民病院  
(医社) 上総会 山之内病院  
(医薬) 公明会 塩田病院  
(医法) 成春会北習志野花輪病院  
(医社) 勤労者医協船橋二和病院  
(医社) 協友会 船橋総合病院  
(医社) 協友会 柏厚生総合病院  
東葛病院  
千葉市立海浜病院  
順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院  
船橋市立医療センター  
(医社) 愛友会 千葉愛友会記念病院  
医療法人社団保健会谷津保健病院  
(医社) 翠明会 山王病院  
帝京大学ちば総合医療センター  
東京慈恵会医科大学附属柏病院  
セコムメディック病院

## 13. 東京都

国立成育医療研究センター  
(独)国立病院機構東京医療センター小児科  
東京医科歯科大学病院  
NTT 東日本関東病院  
JR 東京総合病院  
東京通信病院  
自衛隊中央病院  
都立駒込病院  
都立墨東病院  
東京都保健医療公社 荏原病院  
東京都立大塚病院  
東京都保健医療公社 豊島病院  
青梅市立総合病院  
稲城市立病院  
町田市民病院  
公立昭和病院  
総合病院大森赤十字病院  
日本赤十字社医療センター  
葛飾赤十字産院  
武蔵野赤十字病院  
東京都済生会中央病院  
公立福生病院

東京蒲田医療センター  
東京新宿メディカルセンター  
虎の門病院  
総合病院三宿病院  
公立学校共済組合 関東中央病院  
東京警察病院  
三楽病院  
聖路加国際病院  
北里研究所病院  
（社）至誠会第二病院  
池上総合病院  
荻窪病院  
（医財）河北総合病院  
杏林大学医学部付属病院  
日本大学病院  
東京慈恵会医科大学附属病院  
東京女子医科大学病院  
慶應義塾大学病院  
東京医科大学病院  
日本医科大学病院  
順天堂大学附属順天堂医院  
昭和大学病院  
東邦大学医療センター大橋病院  
東邦大学医療センター大森病院  
東京女子医科大学東医療センター  
日本大学医学部附属板橋病院  
東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター  
東京慈恵会医科大学附属病院第3病院  
東都文京病院  
三井記念病院  
母子愛育会総合母子保健センター愛育病院  
同愛記念病院  
久我山病院  
東京医療生協組合 新渡戸記念中野総合病院  
立正佼成会 附属佼成病院  
東京衛生病院  
（社福）勝楽堂病院  
健貢会 総合東京病院  
（社福）日本心身障害者協会島田療育センター  
（社福）東京都同胞援護会昭島病院  
（社福）鶴風会東京小児療育病院  
医療法人社団日心会総合病院一心病院  
まつしま産婦人科小児科病院  
（財）東京都保健医療公社多摩南部地域病院  
（独）国立病院機構災害医療センター小児科  
都立東大和療育センター  
小畑会浜田病院  
東京臨海病院  
東京北医療センター  
（公財）日本心臓血管研究振興会附属榊原記念病院  
東京都立小児総合医療センター  
明理会中央総合病院  
仁寿会 荘病院  
順天堂大学医学部附属練馬病院  
永生会 南多摩病院  
正志会 南町田病院  
多摩北部医療センター  
大和会 武蔵村山病院  
医療法人 沖縄徳洲会 武蔵野徳洲会病院  
明芳会 イムス東京葛飾総合病院  
都立府中療育センター  
（医財）健康文化会 小豆沢病院  
緑風荘病院  
公立阿伎留医療センター  
帝京大学医学部附属病院  
（医社）誠志会 誠志会病院  
日本医科大学 多摩永山病院  
博慈会記念総合病院  
秋津療育園  
（社福）聖ヨハネ会桜町病院

昭和大学江東豊洲病院  
（医社）板橋中央総合病院  
東京医科大学八王子医療センター  
国立精神神経医療研究センター病院  
医療法人社団健生会立川相互病院  
東京労災病院  
王子生協病院  
練馬光が丘病院  
医療法人社団大坪会東和病院  
苑田会 苑田第三病院

14. 神奈川県  
（独）国立病院機構横浜医療センター  
横須賀市立うわまち病院  
独立行政法人国立病院機構相模原病院  
独立行政法人国立病院機構神奈川病院  
厚木市立病院  
神奈川県立足柄上病院  
横浜市立市民病院  
川崎市立川崎病院  
平塚市民病院  
茅ヶ崎市立病院  
小田原市立病院  
三浦市立病院  
大和市立病院  
横浜市立みなと赤十字病院  
相模原協同病院  
横浜栄共済病院  
横須賀共済病院  
国公共済連総合病院平塚共済病院  
（財）神奈川県警友会けいゆう病院  
大口東総合病院  
京浜総合病院  
総合川崎臨港病院  
（医療）愛仁会 太田総合病院  
（医社）亮正会総合高津中央病院  
湘野辺総合病院  
日本医科大学 武蔵小杉病院  
国際親善総合病院  
総合相模更生病院  
鈴木病院  
医療法人産育会堀病院  
湘南鎌倉総合病院  
（独）労働者健康福祉機構横浜労災病院  
横浜市立大学附属病院  
自衛隊横須賀病院  
（医療）柏堤会 戸塚共立第2病院  
昭和大学横浜市北部病院こどもセンター  
済生会横浜市東部病院こどもセンター  
鴨居病院  
川崎市立多摩病院  
三成会 新百合ヶ丘総合病院  
医療法人社団 葵会 AOI 国際病院  
医療法人 徳洲会 茅ヶ崎徳洲会病院  
ジャパンメディカルアライアンス 座間総合病院  
関東労災病院  
総合病院秦野赤十字病院  
伊勢原協同病院  
国公共済連 虎の門病院分院  
藤沢市民病院  
聖マリアンナ医科大学病院  
東海大学医学部付属病院  
北里大学病院  
帝京大学 溝口病院  
川崎医療生協 川崎協同病院  
相模台病院  
済生会 横浜市南部病院  
神奈川県立汐見台病院  
（医療）徳洲会 大和徳洲会病院  
桜ヶ丘中央病院 小児科

湘南藤沢徳洲会病院  
（医社）愛友会 金沢文庫病院  
東海大学医学部附属大磯病院  
（医社）JMA 海老名総合病院  
聖マリアンナ医科大学横浜西部病院  
医療法人社団緑成会横浜総合病院  
医療法人社団柏綾会綾瀬厚生病院

15. 新潟県  
独立行政法人国立病院機構新潟病院  
新潟大学医歯学総合病院  
新潟県立ガンセンター新潟病院  
新潟県立新発田病院  
新潟県立十日町病院  
新潟県立中央病院  
総合病院長岡赤十字病院  
済生会 三条病院  
長岡中央総合病院  
柏崎総合医療センター  
上越総合病院  
けいなん病院  
糸魚川総合病院  
佐渡総合病院  
（医療）立川総合病院  
済生会新潟第二病院  
共生会中条中央病院  
（一財）新潟県地域医療推進機構魚沼基幹病院  
JA 新潟厚生連 小千谷総合病院  
新潟市民病院  
新潟南病院  
木戸病院  
新潟医療センター  
南部郷総合病院  
佐渡市立両津病院  
新潟県立坂町病院  
新潟白根総合病院

16. 富山県  
富山市立富山市民病院  
黒部市民病院  
高岡市民病院  
かみいち総合病院  
射水市民病院  
市立砺波総合病院  
富山県済生会 富山病院  
厚生連高岡病院  
JCHO 高岡ふしき病院  
公立南砺中央病院  
南砺市民病院  
独立行政法人国立病院機構富山病院  
金沢医科大学氷見市民病院  
富山大学附属病院  
あさひ総合病院

17. 石川県  
（独）国立病院機構金沢医療センター  
金沢大学附属病院  
石川県立中央病院  
金沢市立病院  
国保小松市民病院  
公立能登総合病院  
加賀市医療センター  
町立富来病院  
市立輪島病院  
金沢赤十字病院  
公立松任石川中央病院  
公立つるぎ病院  
JCHO 金沢病院  
恵寿総合病院  
荒木病院

浅ノ川総合病院  
能美市立病院  
珠洲市総合病院  
金沢西病院  
独立行政法人国立病院機構七尾病院  
公立穴水総合病院  
公立宇出津総合病院  
医療法人社団和楽仁辰口芳珠記念病院

#### 18. 福井県

(独)国立病院機構敦賀医療センター  
公立丹南病院  
坂井市立三国病院  
市立敦賀病院  
公立小浜病院  
福井赤十字病院  
JCHO 福井勝山総合病院  
独立行政法人国立病院機構あわら病院  
福井県子ども療育センター  
新田塚医療福祉センター福井総合クリニック  
福井心臓血管センター福井循環器病院  
(医療) 福井愛育病院  
福井大学医学部附属病院

#### 19. 山梨県

市立甲府病院  
韮崎市立病院  
北杜市立甲陽病院  
峡南医療センター富士川病院  
塩山市民病院  
都留市立病院  
桃花会一宮温泉病院  
石和共立病院  
康麗会 笛吹中央病院  
山梨赤十字病院  
甲府共立病院  
山梨厚生病院 小児科  
山梨県立あけぼの医療福祉センター  
大月市立中央病院  
山梨大学医学部附属病院

#### 20. 長野県

(独)国立病院機構信州上田医療センター  
(独)国立病院機構東長野病院  
信州大学医学部附属病院  
長野県立阿南病院  
長野県立木曾病院  
長野県立病院機構 長野県立信州医療センター  
諏訪中央病院  
市立岡谷病院  
伊那中央病院  
市立大町総合病院  
諏訪赤十字病院  
安曇野赤十字病院  
長野赤十字病院  
飯山赤十字病院  
長野県厚生農協連 佐久総合病院佐久医療センター  
長野県厚生農協連 北アルプス医療センターあづみ病院  
J A 長野厚生連 北信総合病院  
長野県厚生農協連 南長野医療センター新町病院  
(医療) 慈泉会 相澤病院  
長野中央病院  
長野県立こども病院  
長野市民病院  
信越病院  
中信勤労者医療協会塩尻協立病院  
元山会中村病院  
軽井沢町国民健康保険軽井沢病院  
登誠会諏訪マタニティクリニック  
敬仁会桔梗ヶ原病院

上伊那医療生活協同組合 上伊那生協病院  
社会医療法人南信勤労者医療協会 諏訪共立病院  
佐久市立国保浅間総合病院  
国立病院機構まつもと医療センター  
昭和伊南総合病院  
町立辰野病院  
飯田市立病院  
城西病院  
信濃医療福祉センター  
長野県厚生農業組合連合会富士見高原病院  
長野県厚生農業組合連合会篠ノ井総合病院  
医療法人新生病院  
長野県厚生連長野松代総合病院  
健和会病院  
松本市立病院  
松本協立病院

#### 21. 岐阜県

国立病院機構長良医療センター  
市立恵那病院  
岐阜県総合医療センター  
岐阜県立多治見病院  
岐阜市民病院  
羽島市民病院  
大垣市民病院  
美濃市立美濃病院  
多治見市民病院  
土岐市立総合病院  
総合病院中津川市民病院  
下呂市立金山病院  
岐阜県厚生農協連 岐北厚生病院  
岐阜県厚生農協連 西美濃厚生病院  
岐阜県厚生農協連 揖斐厚生病院  
JA 岐阜厚生連 中濃厚生病院  
公立学校共済組合 東海中央病院  
みどり病院  
医療法人藤掛病院  
東可児病院  
岐阜大学医学部附属病院  
岐阜県立下呂温泉病院  
(医社) 誠広会 平野総合病院  
国保坂下病院  
医療法人社団友愛会岩砂病院・岩砂マタニティ  
岐阜県厚生連久美愛病院

#### 22. 静岡県

独立行政法人国立病院機構天竜病院  
静岡県立総合病院  
静岡市立静岡病院  
沼津市立病院  
富士市立中央病院  
富士宮市立病院  
静岡市立清水病院  
共立蒲原総合病院  
藤枝市立総合病院  
焼津市立総合病院  
市立島田市民病院  
菊川市立総合病院  
磐田市立総合病院  
市立湖西病院  
静岡赤十字病院  
浜松赤十字病院  
静岡済生会総合病院  
JA 静岡厚生連 清水厚生病院  
JA 静岡厚生連 遠州病院  
(財) 恵愛会 聖隷富士病院  
浜松医療センター  
順天堂大学医学部附属静岡病院  
聖隷三方原病院  
伊東市民病院

熱海所記念病院  
国際医療福祉大学附属熱海病院  
静岡県立静岡がんセンター  
静岡徳洲会病院  
中東遠総合医療センター  
下田メディカルセンター  
静岡県立こども病院  
浜松医科大学附属病院 小児科  
(独)国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター  
芙蓉協会 聖隷沼津病院

#### 23. 愛知県

国立病院機構名古屋医療センター  
国立病院機構豊橋医療センター  
名古屋大学病院  
AOI 名古屋病院  
名古屋市立西部医療センター  
名古屋市立大学病院  
豊橋市民病院  
岡崎市民病院  
一宮市立市民病院  
公立陶生病院  
半田市立半田病院  
春日井市民病院  
小牧市民病院  
豊川市民病院  
あま市民病院  
西尾市民病院  
蒲郡市民病院  
稲沢市民病院  
常滑市民病院  
名古屋第一赤十字病院  
名古屋第二赤十字病院  
J A 愛知厚生連 海南病院  
J A 愛知厚生連 豊田厚生病院  
J A 愛知厚生連 安城更生病院  
J A 愛知厚生連 江南厚生病院  
JCHO 中京病院  
名鉄病院  
名古屋掖済会病院  
総合大雄会病院  
刈谷豊田総合病院  
桂名会 重工記念病院  
トヨタ記念病院  
聖霊病院  
愛知県三河青い鳥医療療育センター  
清慈会 鈴木病院  
尾張健友会 千秋病院  
秋田病院  
名南病院  
碧南市民病院  
名古屋記念病院  
愛知県青い鳥医療福祉センター  
足助病院  
みよし市民病院  
岡崎南病院  
あいち小児保健医療総合センター  
名古屋西病院  
西知多医療厚生組合 公立西知多総合病院  
中部労災病院  
N T T 西日本東海病院  
南生協病院  
藤田保健衛生大学病院  
藤田保健衛生大学坂文種報徳会病院  
愛知医科大学病院  
愛知県医療療育総合センター  
(医療) 宝美会 総合青山病院  
J A 愛知厚生連 稲沢厚生病院  
(医療) 済衆館済衆館病院  
J A 愛知厚生連 知多厚生病院

旭労災病院  
医療法人財団新和会八千代病院  
成田記念病院  
医療法人青山病院  
医療法人徳洲会名古屋徳洲会総合病院  
医療法人渡辺病院

#### 24. 三重県

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院  
三重県立総合医療センター  
三重大学医学部附属病院  
三重県立志摩病院  
市立四日市病院  
紀南病院  
伊勢赤十字病院  
JCHO 四日市羽津医療センター  
岡波総合病院  
J A 三重県厚生連 鈴鹿中央総合病院  
名張市立病院  
済生会明和病院  
伊勢慶友病院  
桑名市総合医療センター  
国立病院機構三重病院

#### 25. 滋賀県

大津市民病院 小児循環器科  
近江八幡市立総合医療センター  
彦根市立病院  
市立長浜病院  
長浜市立湖北病院  
高島市民病院  
大津赤十字病院  
長浜赤十字病院  
済生会滋賀県病院  
地域医療機能推進機構滋賀病院  
(財) 豊郷病院  
重症心身障害児施設ひこぎ学園医療福祉センター草津  
誠光会草津総合病院  
大津赤十字志賀病院  
昂会湖東記念病院  
近江草津徳洲会病院  
医療法人 マキノ病院  
東近江市蒲生医療センター  
(医療) 彦根中央病院  
守山市民病院  
滋賀医科大学病院  
滋賀県立小児保健医療センター  
野洲病院

#### 26. 京都府

京都医療センター  
市立福知山市民病院  
独立行政法人国立病院機構舞鶴医療センター  
京都大学医学部附属病院 小児科  
京都府立医科大学付属北部医療センター  
京都市立病院  
京都中部総合医療センター  
京都第二赤十字病院  
京都第一赤十字病院  
済生会 京都府病院  
京都鞍馬口医療センター  
綾部市立病院  
京丹後市立久美浜病院  
三青園丹後ふるさと病院  
石鏡会田辺中央病院  
足立病院  
亀岡市立病院  
三菱京都病院  
独立行政法人国立病院機構宇多野病院  
京都通信病院

京都武田病院  
宇治武田病院  
京都社会事業財団 京都桂病院  
美杉会男山病院  
京都山城総合医療センター  
聖ヨゼフ医療福祉センター  
宇治徳洲会病院  
(医療) 啓信会 京都きづ川病院  
(医療) 福富士会 京都ルネス病院  
社団法人京都保健会京都民医連中央病院  
京都市桃陽病院  
医療法人和松会六地藏総合病院  
京都府立医科大学小児科

#### 27. 大阪府

(独) 国立病院機構大阪医療センター  
(独) 国立病院機構大阪南医療センター  
大阪大学医学部附属病院  
大阪府立十三市民病院  
大阪府立大学医学部附属病院  
堺市立総合医療センター  
市立池田病院  
市立豊中病院  
市立吹田市民病院  
市立ひらかた病院  
地方独立行政法人市立東大阪医療センター  
八尾市立病院  
泉大津市立病院  
市立岸和田市民病院  
市立貝塚病院  
りんくう総合医療センター  
大阪赤十字病院  
済生会 中津病院  
済生会野江病院  
大阪府済生会 茨木病院  
大阪みなと中央病院  
純幸会 関西メディカル病院  
松下記念病院  
田附興風会 北野病院  
住友病院  
大阪掖済会病院  
日本生命済生会 日本生命病院  
聖パルナバ病院  
大阪府警察協会大阪警察病院  
石井記念愛染園付属愛染橋病院  
(財) 西淀病院  
社会医療法人きっこう会 多根総合病院  
彰療会 大正病院  
同仁会 耳原総合病院  
宝生会 PL病院  
生長会 府中病院  
大阪医科大学病院  
関西医科大学香里病院  
大阪暁明館病院  
淀川キリスト教病院  
大阪府済生会千里病院  
真美会 中野こども病院  
寺西報恩会 長吉総合病院  
医療法人第一東和会病院  
若弘会若草第一病院  
大阪府立総合医療センター小児救急科  
枚方公済病院  
関西医科大学附属病院  
関西医科大学総合医療センター  
飯島病院  
守口生野記念病院  
萱島生野病院  
野崎徳洲会病院  
松原徳洲会病院  
行岡医学研究会 行岡病院

堺花咲病院  
市立柏原病院  
仙養会 北摂総合病院  
大阪労災病院  
国立循環器病研究センター  
和泉市立総合医療センター  
高槻赤十字病院  
JCHO 星ヶ丘医療センター  
愛仁会 千船病院  
岸和田徳洲会病院  
愛仁会 高槻病院  
近畿大学医学部附属病院  
富田林病院  
信愛会 交野病院  
大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター  
箕面市立病院  
祐生会 みどりヶ丘病院  
協仁会 小松病院  
河内友誼会 河内総合病院  
徳洲会 八尾徳洲会総合病院  
大阪府立母子保健総合医療センター  
阪南市民病院  
同友会 共和病院  
生長会 ベルランド総合病院  
孟仁会 摂南総合病院

#### 28. 兵庫県

(独) 国立病院機構姫路医療センター  
明石医療センター  
神戸大学病院  
関西労災病院  
兵庫県立西宮病院  
神戸市立医療センター中央市民病院  
明石市立市民病院  
公立豊岡病院  
西宮市立中央病院  
市立川西病院  
市立伊丹病院  
公立八鹿病院  
赤穂市民病院  
市立西脇病院  
市立芦屋病院  
三田市民病院  
姫路赤十字病院  
済生会 兵庫県病院  
JCHO 神戸中央病院  
公学共済 近畿中央病院  
甲南病院  
製鉄記念広畑病院  
上田病院  
六甲アイランド甲南病院  
神戸市立西神戸医療センター  
樹徳会上ヶ原病院  
兵庫医科大学ささやま医療センター  
第二協立病院  
北播磨総合医療センター  
医療法人社団 栄宏会 栄宏会小野病院  
加古川中央市民病院  
神戸市立医療センター西市民病院  
公立香住病院  
西宮すなご医療福祉センター  
西宮回生病院  
自衛隊 阪神病院  
兵庫県立こども病院  
兵庫医科大学病院  
(医療) 尚和会 宝塚第一病院  
総合病院 姫路聖マリア病院  
尼崎医療生協病院  
(医療晋真会) ベリタス病院  
公立神崎総合病院

兵庫県立柏原病院  
東神戸病院  
(独)国立病院機構神戸医療センター  
医療法人社団まほし会真星病院  
医療法人社団純心会 パルモア病院  
汐咲会 井野病院  
宝塚市立病院  
医療法人伯鳳会 赤穂中央病院

29. 奈良県  
市立奈良病院  
奈良県立医科大学病院  
宇陀市立病院  
大和高田市立病院  
済生会 奈良病院  
地域医療機能推進機構大和郡山病院  
天理よろづ相談所病院  
土庫病院  
奈良県総合リハビリテーションセンター  
国保中央病院  
近畿大学医学部奈良病院  
社会医療法人 高清水 高井病院  
南奈良総合医療センター  
藤井会 香芝生喜病院  
生駒市立病院  
(独)国立病院機構奈良医療センター  
奈良県立総合医療センター  
奈良県西和医療センター  
済生会 中和病院  
清心会 桜井病院  
奈良友誼会病院

30. 和歌山県  
和歌山県立医科大学病院  
和歌山県立医科大学病院紀北分院  
海南医療センター  
公立那賀病院  
橋本市市民病院  
有田市立病院  
国保日高総合病院  
紀南病院  
新宮市立医療センター  
日本赤十字社和歌山医療センター  
白浜はまゆう病院  
和歌浦中央病院  
北出病院  
くしもと町立病院  
那智勝浦町立温泉病院  
労働福祉事業団 和歌山ろうさい病院  
和歌山生協病院  
医療法人青松会河西田村病院

31. 鳥取県  
(独)国立病院機構米子医療センター  
鳥取大学病院  
鳥取県立中央病院  
鳥取県立厚生病院  
岩美町国保岩美病院  
国保智頭病院  
鳥取赤十字病院  
鳥取県済生会 境港総合病院  
日野病院  
博愛病院  
南部町国民健康保険西伯病院  
県立総合療育センター  
日南病院  
山陰労災病院  
(独)国立病院機構鳥取医療センター

32. 島根県  
大田市立病院  
(独)国立病院機構浜田医療センター  
島根県立中央病院  
松江市立病院  
出雲市立総合医療センター  
雲南市立病院  
隠岐広域連立隠岐病院  
松江赤十字病院  
益田赤十字病院  
済生会 江津総合病院  
東部島根医療福祉センター  
公立邑智病院  
安来市立病院  
松江生協病院  
島根大学医学部附属病院  
松江記念病院

33. 岡山県  
国立病院機構岡山医療センター  
岡山大学病院  
倉敷市立児島市民病院  
笠岡市立市民病院  
市立井原市民病院  
岡山赤十字病院  
岡山済生会総合病院  
川崎医科大学総合医療センター  
(公財)大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院  
津山中央病院  
(医)水と会 水島中央病院  
新見中央病院  
総合病院 水島協同病院  
成羽病院  
瀬戸内市民病院  
総合病院玉野市立玉野市民病院  
同仁会 金光病院  
川崎医科大学附属病院  
(独)国立病院機構南岡山医療センター  
重井医学研究所附属病院  
倉敷成人病センター  
笠岡中央病院  
笠岡第一病院  
岡山労災病院

34. 広島県  
呉医療センター  
(独)国立病院機構福山医療センター小児循環器科  
医療法人 JR 広島病院  
広島通信病院  
県立広島病院  
県立安芸津病院  
広島市立広島市民病院  
世羅中央病院  
市立三次中央病院  
広島赤十字・原爆病院  
総合病院 三原赤十字病院  
総合病院 庄原赤十字病院  
広島厚生連農協 尾道総合病院  
J A 広島厚生連 広島総合病院  
府中市市民病院  
日立造船健保因島総合病院  
広島記念病院  
中国電力株式会社 中電病院  
マツダ株式会社 マツダ病院  
葵会八本松病院  
独立行政法人国立病院機構広島西医療センター  
日本鋼管福山病院  
広島市立舟入病院  
福山市民病院

広島医療生協広島共立病院  
広島市立安佐市民病院  
中国労災病院  
県立障害者リハビリテーションセンター医療センター  
公立みつぎ総合病院  
あかね会 土谷総合病院  
うすい会 高陽ニュータウン病院  
里仁会 興生総合病院

35. 山口県  
国立病院機構関門医療センター  
山口大学医学部付属病院  
山口県立総合医療センター  
下関市立市民病院  
光市立総合病院  
山陽小野田市立小野田市民病院  
総合病院 山口赤十字病院  
済生会 下関総合病院  
周東総合病院  
長門総合病院  
JCHO 徳山中央病院  
神徳会 三田尻病院  
岩国市医療センター医師会病院  
山口労災病院  
鼓ヶ浦こども医療福祉センター  
美祢市立病院  
周南記念病院  
山口県済生会豊浦病院  
萩市民病院  
みちがみ病院  
(独)国立病院機構柳井医療センター

36. 徳島県  
独立行政法人国立病院機構徳島病院  
徳島大学病院  
徳島県立中央病院  
徳島市民病院  
町立半田病院  
徳島赤十字病院  
阿南共栄病院  
厚生連 吉野川医療センター  
徳島県鳴門病院  
(独)国立病院機構東徳島医療センター  
徳島県立海部病院  
(医療)原田病院  
阿波病院  
たまき青空病院

37. 香川県  
さぬき市民病院  
坂出市立病院  
三豊総合病院  
高松赤十字病院  
屋島総合病院  
りつりん病院  
小豆島中央病院  
高松市立みんなの病院  
四国こどもとおとなの医療センター  
香川県済生会病院  
坂出聖マルチン病院  
香川大学医学部附属病院  
かがわ総合リハビリテーション病院  
高松平和病院  
大樹会総合病院 回生病院  
香川井下病院

38. 愛媛県  
(独)国立病院機構愛媛医療センター  
愛媛県立中央病院



愛媛県立今治病院  
愛媛県立南宇和病院  
市立宇和島病院  
西条中央病院  
住友別子病院  
公立学校共済組合四国中央病院  
愛媛労災病院  
伊予病院  
天山病院  
瀬戸内海病院  
(財法) 積善会附属十全総合病院  
更生会 村上記念病院  
総合病院 松山市民病院  
愛媛県立新居浜病院  
済生会今治病院  
大洲市立大洲病院

39. 高知県  
国立病院機構高知病院  
高知医療センター  
仁淀病院  
土佐市立土佐市民病院  
佐川町立高北国保病院  
高知赤十字病院  
J A 高知病院  
聖真会 渭南病院  
公世会野市中央病院  
幡多けんみん病院  
仁生会 細木病院  
(医療) 仁生会 三愛病院  
高知大学医学部附属病院  
高知県立あき総合病院

40. 福岡県  
(独) 国立病院機構小倉医療センター  
国立病院九州医療センター  
(独) 国立病院機構福岡病院  
(独) 国立病院機構福岡東医療センター  
久留米大学医療センター小児科  
九州大学病院  
福岡通信病院  
北九州市立門司病院  
北九州市立医療センター  
産業医大若松病院  
北九州市立八幡病院  
筑後市立病院  
福岡赤十字病院  
福岡県済生会八幡総合病院  
福岡県済生会 福岡総合病院  
(独) 地域医療機能推進機構九州病院  
浜の町病院  
福岡記念病院  
久留米大学病院  
飯塚病院  
宗像医師会病院  
宗像水光会総合病院  
姫野病院  
飯塚市立病院  
福岡山王病院  
遠賀中間医師会 おんが病院  
福岡新水巻病院  
九州労災病院  
自衛隊 福岡病院  
医療福祉センター聖ヨゼフ園  
正信会 水戸病院  
ゆうかり医療療育センター  
産業医科大学病院  
福岡大学病院  
総合病院千鳥橋病院

北九州総合病院  
北九州市立総合療育センター  
福岡市立こども病院・感染症センター感染症科  
米の山病院  
徳洲会 福岡徳洲会病院  
高邦会 高木病院  
健和会 大手町病院  
戸畑総合病院  
川崎町立病院  
朝倉医師会病院  
牟田病院  
健和会京町病院  
福岡大学筑紫病院  
相生会 宮田病院  
社会保険田川病院

41. 佐賀県  
(独) 国立病院機構佐賀病院  
(独) 国立病院機構嬉野医療センター  
佐賀医療センター好生館  
伊万里有田共立病院  
唐津赤十字病院  
佐賀整肢学園こども発達医療センター  
古賀小児科内科病院  
医療法人社団 敬愛会 佐賀記念病院  
小城市民病院  
(独) 国立病院機構東佐賀病院  
佐賀大学医学部附属病院  
至慈会 高島病院

42. 長崎県  
国立病院長崎医療センター  
長崎大学病院  
長崎みなとメディカルセンター  
佐世保市総合医療センター  
市立大村市民病院  
長崎県五島中央病院  
長崎県壱岐病院  
健保諫早総合病院  
佐世保共済病院  
長崎記念病院  
(医療) 白十字会佐世保中央病院  
医療法人医理会 柿添病院  
長崎県病院企業団 長崎県対馬病院  
(独) 国立病院機構長崎病院  
長崎県島原病院  
済生会長崎病院  
諫早療育センター-  
平成会 女の都病院

43. 熊本県  
(独) 国立病院機構熊本医療センター  
熊本大学医学部附属病院  
熊本市市民病院(小児科)  
阿蘇医療センター  
小国公立病院  
水俣市立総合医療センター  
球磨郡公立多良木病院  
上天草総合病院  
熊本赤十字病院  
熊本中央病院  
熊本労災病院  
くわみず病院  
天草地域医療センター  
谷田会谷田病院  
聖和会有明成仁病院  
八代市医師会立病院  
社会医療法人黎明会宇城総合病院  
慈恵病院

くまもと芦北療育医療センター  
熊本地域医療センター  
坂梨会 阿蘇温泉病院  
玉名地域保健医療センター

44. 大分県  
国立病院機構別府医療センター  
(独) 国立病院機構西別府病院  
中津市立中津市民病院  
大分県立病院  
国東市民病院  
杵築市立山香病院  
大分県厚生連鶴見病院  
大分こども病院  
大分県済生会日田病院  
別府発達医療センター  
豊後大野市民病院  
大分市医師会立アルメイダ病院  
大分大学医学部附属病院  
大分健生病院  
医療法人財団天心堂へつぎ病院

45. 宮崎県  
(独) 国立病院機構都城医療センター  
宮崎県立宮崎病院 小児科  
県立日南病院  
小林市立病院  
高千穂町国保病院  
育生会井上病院  
宮崎生協病院  
宮崎大学附属病院  
宮崎県済生会日向病院

46. 鹿児島県  
国立病院鹿児島医療センター  
(独) 国立病院機構指宿医療センター  
鹿児島大学病院  
県民健康プラザ鹿屋医療センター  
鹿児島市立病院  
出水総合医療センター  
鹿児島こども病院  
国分生協病院  
医療法人 義順顕彰会種子島医療センター  
徳洲会屋久島徳洲会病院  
霧島市立医師会医療センター  
童仁会 池田病院  
今村総合病院  
県立大島病院  
総合病院鹿児島生協病院  
財団法人今給黎総合病院  
医療法人徳洲会徳之島徳洲会病院

47. 沖縄県  
医療法人ユカリア沖縄 かんな病院  
海秀会 うえむら病院  
県立北部病院  
沖縄県立中部病院  
総合病院沖縄赤十字病院  
沖縄協同病院  
敬愛会 中頭病院  
那覇市立病院  
沖縄南部療育医療センター  
沖縄徳洲会 南部徳洲会病院  
中部徳洲会病院  
かりゆし会ハートライフ病院  
潮平病院  
沖縄療育園  
医療法人信和会沖縄第一病院  
八重瀬会 同仁病院

# 川崎病調査票 (第25回全国調査)

お願い

- 平成29年1月1日～平成30年12月31日の2年間に発症し貴施設を受診した患者全員について記入して下さい。
- 症例がない場合も下記のQ1「施設に関する質問」をご記入の上、ご返送下さい。
- 他施設より紹介された患者、他施設へ転院した患者も含まれます。

主治医(代表者)ご芳名 \_\_\_\_\_  
メールアドレス \_\_\_\_\_

平成30年 7月  
川崎病全国疫学調査事務局作成

「診断の確実性の確認」  
1 確実A, Bの主要症状のうち5つ以上の症状あり  
2 確実B, 4つの症状しかないが、運動腫脹が確定し、かつ  
3 不全型 診断の手引きの基準を満たさないが、他の薬品が否定され川崎病と考えられるもの

記入しない	転院の場合 は○	患者氏名 イニシアル	性別	出生年月日	発病時患者住所	初診時 病日	診断の 確実度	治療 (前症での投与分についても含む)		初診前1週間以内の 抗生剤の投与	今回の 発症	同胞例	両親の 川崎病 既往歴	心臓書	
								初回IG投与 (IG投与)	初回IG投与 後の追加治療法					初診時の異常 (1か月以内)	後遺症 (発症後1か月)
姓	名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	1 平成29年 2 平成30年 月 日	1 確実A 2 確実B 3 不全型 主要症状の数 ( / 6)	1 IG投与なし 2 IG投与あり 3 IG投与あり (不応例) 4 X行ロト併用あり 1, 2, 3, 4, 5, 6以外	1 追加IG 2 ステロイド 3 Infliximab 4 免疫抑制剤 5 血漿交換	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	
姓	名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	1 平成29年 2 平成30年 月 日	1 確実A 2 確実B 3 不全型 主要症状の数 ( / 6)	1 IG投与なし 2 IG投与あり 3 IG投与あり (不応例) 4 X行ロト併用あり 1, 2, 3, 4, 5, 6以外	1 追加IG 2 ステロイド 3 Infliximab 4 免疫抑制剤 5 血漿交換	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変
姓	名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	1 平成29年 2 平成30年 月 日	1 確実A 2 確実B 3 不全型 主要症状の数 ( / 6)	1 IG投与なし 2 IG投与あり 3 IG投与あり (不応例) 4 X行ロト併用あり 1, 2, 3, 4, 5, 6以外	1 追加IG 2 ステロイド 3 Infliximab 4 免疫抑制剤 5 血漿交換	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変
姓	名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	1 平成29年 2 平成30年 月 日	1 確実A 2 確実B 3 不全型 主要症状の数 ( / 6)	1 IG投与なし 2 IG投与あり 3 IG投与あり (不応例) 4 X行ロト併用あり 1, 2, 3, 4, 5, 6以外	1 追加IG 2 ステロイド 3 Infliximab 4 免疫抑制剤 5 血漿交換	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変
姓	名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	1 平成29年 2 平成30年 月 日	1 確実A 2 確実B 3 不全型 主要症状の数 ( / 6)	1 IG投与なし 2 IG投与あり 3 IG投与あり (不応例) 4 X行ロト併用あり 1, 2, 3, 4, 5, 6以外	1 追加IG 2 ステロイド 3 Infliximab 4 免疫抑制剤 5 血漿交換	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変
姓	名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	1 平成29年 2 平成30年 月 日	1 確実A 2 確実B 3 不全型 主要症状の数 ( / 6)	1 IG投与なし 2 IG投与あり 3 IG投与あり (不応例) 4 X行ロト併用あり 1, 2, 3, 4, 5, 6以外	1 追加IG 2 ステロイド 3 Infliximab 4 免疫抑制剤 5 血漿交換	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変
姓	名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	1 平成29年 2 平成30年 月 日	1 確実A 2 確実B 3 不全型 主要症状の数 ( / 6)	1 IG投与なし 2 IG投与あり 3 IG投与あり (不応例) 4 X行ロト併用あり 1, 2, 3, 4, 5, 6以外	1 追加IG 2 ステロイド 3 Infliximab 4 免疫抑制剤 5 血漿交換	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大腫 3 腫 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変

1 当該患者を登録させた場合は○をつけて下さい。  
2 貴院のベッド数はいくつですか。 病室全体 \_\_\_\_\_ 床 小児科一般病棟 \_\_\_\_\_ 床  
3 貴院の小児科医は何人ですか。 常勤小児科医 \_\_\_\_\_ 人 非常勤小児科医 \_\_\_\_\_ 人  
4 川崎病患者を専門とする小児科医 \_\_\_\_\_ 人 非常勤小児科医 \_\_\_\_\_ 人  
5 その他循環器を専門とする小児科医 \_\_\_\_\_ 人 非常勤小児科医 \_\_\_\_\_ 人  
6 貴院では急性期の心臓書も心後遺症もない川崎病既往症をいつまで観察するか原則は決まっていますか。  
7 川崎病患者の運動腫脹の評価にz-scoreを使用していますか。( )  
8 次の4, 5の設問は 1 原則として全例に使用 2 症例による 3 原則として実施しない(いずれか一つ選択)として回答する。  
9 川崎病患者の運動腫脹の評価にz-scoreを使用していますか。( )  
10 川崎病急性期の患者に次の検査を実施していますか。 1 心電図検査 ( ) 2 尿沈渣 ( ) 3 腫液検査 ( )

Q1. 「施設に関する質問」(本調査票を2枚以上使用の場合は1枚目にご記入下さい。)

1. 貴院のベッド数はいくつですか。 病室全体 \_\_\_\_\_ 床 小児科一般病棟 \_\_\_\_\_ 床  
2. 貴院の小児科医は何人ですか。 常勤小児科医 \_\_\_\_\_ 人 非常勤小児科医 \_\_\_\_\_ 人  
3. 貴院では急性期の心臓書も心後遺症もない川崎病既往症をいつまで観察するか原則は決まっていますか。  
4. 川崎病患者の運動腫脹の評価にz-scoreを使用していますか。( )  
5. その他循環器を専門とする小児科医 \_\_\_\_\_ 人 非常勤小児科医 \_\_\_\_\_ 人  
6. 貴院では急性期の心臓書も心後遺症もない川崎病既往症をいつまで観察するか原則は決まっていますか。  
7. 川崎病患者の運動腫脹の評価にz-scoreを使用していますか。( )  
8. 次の4, 5の設問は 1 原則として全例に使用 2 症例による 3 原則として実施しない(いずれか一つ選択)として回答する。  
9. 川崎病患者の運動腫脹の評価にz-scoreを使用していますか。( )  
10. 川崎病急性期の患者に次の検査を実施していますか。 1 心電図検査 ( ) 2 尿沈渣 ( ) 3 腫液検査 ( )

患者氏名(仮名) \_\_\_\_\_ 性別 \_\_\_\_\_ 性 \_\_\_\_\_ 出生年月日 \_\_\_\_\_ 川崎病初発年月日 \_\_\_\_\_ 死亡年月日 \_\_\_\_\_ 剖検 \_\_\_\_\_ 死亡原因 \_\_\_\_\_ 剖検の施設名など \_\_\_\_\_

1. 今回の報告例 姓 \_\_\_\_\_ 名 \_\_\_\_\_ 1. 男 昭平 年 月 日 平成 年 月 日 1. なし  
2. 今回の報告例 姓 \_\_\_\_\_ 名 \_\_\_\_\_ 2. 女 昭平 年 月 日 平成 年 月 日 2. あり

1. 今回の報告例 姓 \_\_\_\_\_ 名 \_\_\_\_\_ 1. 男 昭平 年 月 日 平成 年 月 日 1. なし  
2. 今回の報告例 姓 \_\_\_\_\_ 名 \_\_\_\_\_ 2. 女 昭平 年 月 日 平成 年 月 日 2. あり

一住所 電話番号の欄は未書にてご訂正下さい。  
〒329-0488 返送先  
栃木県下野市薬師寺3311-1  
川崎病全国疫学調査事務局 宛  
自治医科大学疫学調査事務局 宛  
電話: 0285-58-7338 0285-44-6192  
FAX: 0285-44-7217  
E-mail: epkku@johi.ac.jp

★死亡例は下欄Q2にご記入下さい。

「心臓書について記入に際してのお願い」を参照のこと  
巨大腫は直径8mm以上の運動腫脹を指し、心臓書に「巨大腫」と記載されている場合は、心臓書に「巨大腫」と記載されている場合も「巨大腫」としてご記入下さい。